

2026年度

全学教育科目履修案内

【2026年度入学者用】

●この履修案内に記載している履修基準は2026年度入学者に適用します。

●教室変更、休講・補講情報をはじめ、授業に関する情報は「授業支援システム(LMS)」、在学生向けオンライン掲示板を確認するようにしてください。



横浜国立大学 在学生向けポータルサイト
<https://www.ynu.ac.jp/student/>

※以下にアクセスできます。

- ・ 授業支援システム(LMS)
- ・ 学務情報システム
- ・ 在学生向けオンライン掲示板

横浜国立大学 教育推進機構

○目次

I. はじめに	2
1. 全学教育科目履修案内について	2
2. 授業に関するウェブサービスの紹介	2
3. 学生への連絡方法について	3
4. 授業科目 WEB シラバスについて	3
II. 全学教育科目とは	5
1. 本学の教養教育の理念	5
2. 全学教育科目の特色について	6
3. 新しい時代の「教養」とは?	6
4. 全学教育科目の編成について	8
III. 本学の教育の仕組み	9
1. 学期と授業時間	9
2. 全学教育科目の履修の流れ	11
3. 全学教育科目の履修手続の詳細	13
IV. 全学教育科目の履修方法	14
1. 全学教育科目履修基準について	14
2. 全学教育科目の履修登録単位数の上限について	14
3. 全学教育科目の履修について	18
4. 英語科目の履修について	22
5. 初修外国語科目の履修について	31
6. 数理・データサイエンス・AI 科目について	35
7. YNU リテラシー科目について	36
8. 健康スポーツ科目の履修について	38
9. 世界事情及び国際交流科目群の履修について	39
10. 国際的視点から考える協働ラボ (Topics in International Perspective: TIPS) について	39
11. イノベーション教育科目群の履修について	40
12. 放送大学科目の履修について	41
13. 留学生のための授業科目について	42
14. 教育職員免許状について	43
15. 学部向け大学院全学教育科目について	44
V. 全学教育科目の単位の認定	45
1. 定期試験について	45
2. 定期試験の受験上の注意について	45
3. 追試験について	46
4. 授業科目の成績評価について	47
VI. 学外や海外における授業科目の履修等	51
1. 修得単位の認定について	51
2. 横浜市内大学間単位互換制度の履修について	51
3. 放送大学単位互換制度 (特別聴講学生) について	51
4. 派遣留学先の授業科目の認定について	51
VII. YNU 学生ポートフォリオについて	52
VIII. 2025 年度開講全学教育科目一覧	53

I. はじめに

1. 全学教育科目履修案内について

全学教育科目履修案内は、横浜国立大学の学生として、全学教育科目の授業を履修するにあたり、必要な情報を記載しています。学生のみなさんは、所属学部の履修案内（履修手引）により全学教育科目の履修基準（卒業に必要な修得すべき単位数）等を確認の上、この履修案内と時間割表（別途掲示）及びWEBシラバスを参照して、無理なく授業に出席することとともに自宅等での十分な授業外学修時間が確保できるよう履修計画を立ててください。

この履修案内は、学生のみなさんが卒業するまで4年間使用するものですので、紛失しないよう大事に扱ってください。また、疑問な点や不明なことがあれば、独自に解釈せず、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

所属学部	所属学部の履修案内の冊子名称	所属学部の学務担当係
教育学部	履修手引	教育学系学務係（教育学系事務棟 S3-3）
経済学部	学部教育履修案内	経済学務係（経済学部 1号館 N4-1）
経営学部	履修案内	経営学務係（経営学部 1号館 N3-4）
理工学部	理工学部履修案内	理工学部教務係（理工学系事務棟 N8-4）
都市科学部	都市科学部履修案内	都市科学部学務係（工学基礎研究棟 S5-6）
ソクラテスプログラム	Academic Guidelines for YOKOHAMA Socrates Program	国際教育係（学生センター S5-1）

※学務担当係の業務時間は、平日の8時30分～17時00分です。
ただし、12時45分～13時45分は窓口業務を行っていません。

2. 授業に関するウェブサービスの紹介

在校生向け各種教務関係のポータルサイトで、以下に示すシステムにアクセスできます。

・授業支援システム(LMS)

授業を受けるために必要なシステムで、授業資料の閲覧、授業動画の視聴、レポートの提出などは、このシステム上で行われることがほとんどです。各学部の教務担当係や教員と連絡を取るときにも使います。最初の授業で担当教員から使い方の指示があることが多いのできちんと初回授業の前からチェックしてください。「仮登録」を行うことで、授業の情報を閲覧することができます。

・学務情報システム

主に履修登録や時間割の確認、学生ポートフォリオによる学修成果の可視化など、大学での学びの記録を行うシステムです。過去の成績や語学試験(TOEFL ITP など)の成績を確認する際にも使用します。必要な時期に確認忘れのないようにしてください。

・在学生向けオンライン掲示板

大学が学生に対して行う通知や連絡を確認するためのシステムです。その内容は、授業や試験等に関するものの他に、授業料徴収、授業料免除や奨学金関係、課外活動等関係などがあります。毎日一度は必ず掲示板を見るようにしてください。

3. 学生への連絡方法について

全学教育科目に関する学生への連絡事項は、「授業支援システム (LMS) > 【連絡専用】教育企画課全学教育係」、「LMS>各講義科目」、「所属学部の掲示板」や「LMS > 【連絡専用】各学部の教務担当係」、在学生向けオンライン掲示板で伝えますので、毎日確認する習慣を身に付けてください（在学生向けポータルサイト (<https://www.ynu.ac.jp/student/>) から LMS、オンライン掲示板にアクセス可能です）。この履修案内に変更が生じた場合も同様であり、連絡事項の見落としにより、授業のオリエンテーションを欠席したり、休講や教室変更の情報が得られなかったり、レポートの提出期限に遅れたりなど不利益が生じることがあります。掲示した事項はすべて伝達されたものと見なされ、掲示を見なかったという理由で事後に異議を申し立てることはできません。

大学生活において、学生自身の行動に責任を負うことが大学生として最低限のルールであり、学生自身の不注意により生じた不利益は自己の責任となります。

4. 授業科目 WEB シラバスについて

授業科目 WEB シラバスは、各年度開講する授業概要（授業計画、履修目標・到達目標、成績評価の方法と基準、教科書・参考書等）に関する情報が掲載されています。

WEB シラバスは「学務情報システム」→「シラバス検索」で見ることができます。

Q：シラバスとは何ですか？

A：「シラバス (Syllabus)」とは、授業科目の概要 (学生の学修計画) を示したものです。

授業科目ごとの授業内容、履修目標・到達目標、成績評価の方法と基準、教科書・参考書等が明示されており、学生のみなさんが多くの全学教育科目の中から受講する科目を選択する際の道しるべとなる有益な情報がたくさん盛り込まれています。履修登録を行う前に、履修しようとする授業科目の詳細を必ず確認しましょう。

さらに、シラバスは、授業の履修途中において学修を進める上で役立てることができます。例えば、授業時間外の学修内容、参考図書、参考 URL、成績評価の基準など学修に役立つ情報が示されています。シラバスをプリントアウトして授業のファイルに入れて毎回持参する、ノートに貼り付けるなどしておくといでしょう。

シラバス項目例

授業の計画	授業全体のスケジュールと各回の授業内容を示しています。学修計画を立てる際の参考にしてください。
授業時間外の学修内容	授業全体を通して授業前に予習すべき内容、授業後に復習すべき内容を示しています。単位は授業時間前後の予習復習を含めて認定されます。
履修目標	授業で扱う内容 (授業のねらい) を示す目標です。履修目標を達成すると、成績評価「優」に相当します。より高度な内容を自主的な学修で身に付け、主体的に学修したと認められる場合のみ、成績評価「秀」となります。
到達目標	授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標です。到達目標を達成すると成績評価「可」となります。履修目標の達成のためには、さらなる学修を必要としている段階です。
成績評価の方法	成績評価の方法と評価の配分を示しています。また、成績評価の基準として、授業別ルーブリックが表示される場合があります。評価項目と成績評価の基準との関係性が確認できます。
授業の方法	担当教員が授業をどのように進めるのか、課題提出などの情報もあわせて示しています。学修計画を立てる参考にしてください。

Q：学修計画 (履修時間割表) が正しく作れるか不安です。

A：大学では、学修計画 (履修時間割表) を学生自身で作成することになります。この履修案内と所属学部の履修案内 (履修手引) を授業開始前まで十分に理解しましょう。

履修時間割表は、所属学部のカリキュラムツリーや履修モデル等を参照しつつ、①必修科目、②選択必修科目、③選択科目の順に授業を選んでいくとスムーズに作成できます。履修登録は、履修登録期間、履修確認・訂正期間、履修登録キャンセル期間のそれぞれの期間 (P.11) を把握し、これら期間内に間違いがないよう手続してください。

もし何の授業科目から履修すればよいのか少しでも不安があるときは、分からないことをよく整理して、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

II. 全学教育科目とは

本学の教育課程は、学部、学科・課程（学士の学位を授与する教育課程プログラム：学士プログラム）の人材養成目標その他の教育理念・目標の実現とともに、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）による4つの実践的「知」を身に付けさせるために必要な授業科目を開設して体系的に編成しています。

本学では、従来の教養教育・専門教育という枠組みを廃止し、各学士プログラムの中核としての「学部教育」と、全学部を横断した授業開講により学問の多様性を幅広く修得させるとともに、学年（年齢）や人種を越えたダイバーシティの視野を広げる「全学教育」により学士プログラムを構成しています。

全学教育科目とは、以下に掲げる教養教育の理念に基づき、全学部を横断して開講する授業科目です。

1. 本学の教養教育の理念

21世紀の世界は、前世紀における爆発的な人間活動によって社会経済や地球環境に急激な変動がもたらされていると言われていています。その中で、様々な課題を克服し持続可能な社会を構築しようとする研究や実践が、人文科学、社会科学、自然科学などの各分野において、あるいは相互に連携して果敢に行われています。そしてこうした取り組みの中で、改めて、生命、自然、社会等のこれまで自明とされてきた存在、枠組み、方法論等も問い直されています。そこでは、特定の専門だけでなく、様々な専門を俯瞰し、関連付けるなどして、従来の枠組みにとらわれずに、自由で柔軟な発想力や創造力によって新たな対象、課題、方法などを見いだすことが大切です。

そこで本学では、One Campus に様々な分野の研究者が集い、分野横断・文理融合による高度な研究や社会実践に強みのある環境を生かして、人文科学、社会科学、自然科学などの枠組みを取り払い、教養教育科目を、世界を探究する3つの角度から再編して全学教育科目として提供します。

私たちは、まず、他の生物や自然などとともに、生命・自然（life、nature）として存在しています。その私たちは、自らが作り出した制度や文化、人工物などのこと・もの（things）に囲まれています。さらに、私たちは、背景の異なる多様な人と人とのかかわり（relations）のなかで生きています。

①存在の基盤となる生命・自然（life、nature）

②人が作り出した制度や文化、人工物などのこと・もの（things）

③多様な背景をもつ人と人とのかかわり（relations）

*言語「英語、初修外国語、日本語（留学生対象）」を含む

①～③は相互に関連し影響し合っており、また対象が類似していても、そこに向き合う教員の課題意識、探究の方法などによって位置づけが異なる場合もあります。また①～③のそれぞれにおいても、様々な対象、課題、方法などがあります。皆さんは、これらを通して、学問の基本的なスキル等を身に付けるとともに、授業で示される自明性への問いかけの方法を学び、時にはその問いかけの方法をも問い直すなどして、下記の目標の達成を目指してください。

本学の教養教育の目標は次の4つです。

1. さまざまな学問を主体的に学び、幅広い教養を身に付け、専門分野に必要な基礎学力を修得する。
2. 現代社会が直面する諸課題を論理的・批判的・創造的に考える力を養う。
3. 国際感覚を養い、異文化への理解を深め、コミュニケーション力を高める。

4. 人としてあるべき姿を自覚した倫理観と社会を構成する者としての責任感を育む。

各学部での専門性の高い学びと自らデザインする教養教育の学びにより、「知の統合型大学」として本学が目指す「新たな社会・経済システムの提案」や「イノベーションの創出・科学技術の発展」に寄与する人間として大きく成長することを期待します。

2. 全学教育科目の特色について

- ①学生の所属学部の学科・課程・EP等（以下、学科等）（学士プログラム）が指定する授業科目を履修
- ②順次性のある体系的に科目履修を可視化する科目ナンバリングを活用
- ③全学教育科目の履修登録の上限を Semester 12 単位に設定。
- ④英語教育はすべて TOEFL-ITP レベル別指定クラス編成を導入し必修化
- ⑤本学学生が大学での学びを進めるための授業科目として、「YNU リテラシー教育」を必修
- ⑥数理・データサイエンス・AI 教育を全学で推進するため、「数理・データサイエンス・AI 入門」を必修
- ⑦国際共修の入門科目として、「国際的視点から考える協働ラボ」を必修
※必修の有無は学士プログラムによって異なる
- ⑧大学院全学教育科目のうち学部生に開放している科目は、学部4年次に履修することが可能

3. 新しい時代の「教養」とは？

教養とは、社会の中でさまざまな経験をし、知識や知恵を身につけていく中で育まれる「ものの見方」や「考え方」「価値観」のことです。教養は、長い歴史の中で多様な文化に影響を受けながら広がり、次の世代へと受け継がれてきました。

人は、成長の段階ごとに身に付けるべき教養があります。それらは、日々の生活や社会での経験、そして自分自身との対話を通して少しずつ獲得されていきます。そして、それらが積み重なることで「自分は どう生きたいのか」という軸が形づくられ、行動の基準や価値観が生まれていきます。教養とは単なる知識のことではなく、倫理観や規範意識、感性や美意識、自分で考えて行動する力、バランス感覚、さらには体力や精神力まで含んだ、総合的な力なのです。

戦後の日本は、経済成長と科学技術の発展によって大きく豊かになりました。しかし、その一方で「豊かさを感じられない」という人も増えています。価値観が多様化し、個人の生き方もさまざまになったことで、社会全体としての一体感や共通の目標が見えにくくなっているためです。また、少子高齢化や都市化、産業の変化によって、家族や地域、会社といったコミュニティのあり方も大きく変わりました。さらに、情報化が急速に進んだことで、世界中の情報がすぐに手に入る一方、実際に体験したり、人と直接つながったりする機会が減り、人間関係が希薄になっているという問題もあります。科学技術の進歩は多くの恩恵をもたらす反面、地球環境や生命倫理など新たな課題も生み出しています。

こうした時代だからこそ、自分が今どこに立っているのかを見極め、これからどんな目標に向かうのかを考え、その実現のために主体的に動いていく力が求められています。また、変化の激しい社会の中で、自分の生き方を自分で選び、多様な価値観の人と協力しながら、よりよい社会づくりに参加する力も必要です。

これらの力こそが、これからの時代に必要とされる「新しい教養」といえるでしょう。

Q：学士プログラムとは何ですか？

A：我が国では、学部教育課程を「学士課程」、大学院教育課程を「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程」といいます。学生のみなさんが所属する学部の学科等には、“学士の学位を授与する教育課程プログラム”（学士プログラム）が置かれ、所属する学部の学士プログラムの卒業認定を受けて、学長から「学士」の学位が授与されます。

学士プログラム

学部名	授与する学位（専攻分野）
教育学部	学士（教育）
経済学部	学士（経済学）
経営学部	学士（経営学）
理工学部	学士（理学）、学士（工学）
都市科学部	学士（学術）、学士（工学）、学士（環境学）
ソクラテスプログラム	学士（学術）

Q：大学の履修登録はどうするのですか？

A：新入生のみなさんの多くが最初に戸惑うのは履修登録です。高校までは学校が定めた時間割で授業を受けていましたが、大学では学生自身が履修する科目を選び、履修時間割表を作成します（P.11）。もちろん、すべて自由に選べるものではなく、主に低学年次に履修すべき全学教育科目（外国語科目など）、学部学科ごとに必修科目と選択科目等があります。

また、卒業に必要な単位数や科目区分ごとに必要な履修の要件、これら履修できる単位数の上限など学部の学科等（学士プログラム）により異なります。

この冊子「全学教育科目履修案内」と「所属学部の履修案内（履修手引）」の両方で必ず確認してください。履修する講義科目が決まった段階で、学務情報システムで履修登録してください。授業支援システム(LMS)で「仮登録」を行うことで、授業の情報を得ることができます。

Q：授業の単位は高校と同じですか？

A：受験勉強に励んできた新入生のみなさんにとって「学ぶ」とは、いかに早く正解に到達することだったのではないのでしょうか。“大学で学ぶ”とは、授業を単に聞いて覚えることではなく、学生自身で考えることから始まり、自分でテーマを見つけ、仮説を立て、思考したり、調べたり、実験したりしながら、真理に迫るプロセスのことです。大学の学び方で大事なことは、授業の《単位》という概念です。

本学の学則では、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」（第44条）と定めています。一般的な2単位授業は90時間の学修が必要とされます。1回90分（2時間換算）の授業を15回履修すると合計30時間（換算）となりますので、この残り60時間は学生自身が授業の予習・復習、レポートなどの課題、その関連する内容の自発的な授業外学修が必要となるのです。すなわち、大学教員から授業中に与えられた課題をこなす受動的な学びではなく、授業から触発された関心や問題意識により自ら探究する《主体的な学び》を期待しています。

このような“大学の学び”を十分に理解し、学修時間をしっかり確保できるよう無理のない4年間の履修計画を立ててください。

4. 全学教育科目の編成について

全学教育科目は、「1. 本学の教養教育の理念」にも記載されている

- ①存在の基盤となる生命・自然 (life、nature)
- ②人が作り出した制度や文化、人工物などのこと・もの (things)
- ③多様な背景をもつ人と人とのかかわり (relations)

を科目区分として、「生命・自然」、「こと・もの」、「かかわり」の3区分が編成されており、この3区分に基づいて卒業までに修得が必要な履修基準が学士プログラムごとに定められています。

また、体系的な教育課程編成のため、「科目ナンバリング」や「科目分野」も各開講科目には設定されていますので、履修の参考としてください（「IV. 全学教育科目の履修方法」以降を参照）。

Q：大学の授業は難しくないですか？

A：大学の授業、例えば講義形式の授業を受講すると、初めの頃は難しく感じるでしょう。高校までの授業とは、かなり違った方法で授業が進んでいくからです。

大学の授業は、板書をノートに取って、あるいは配付されたスライドの内容を覚えるだけでは本当に学んだことになりません。授業の内容は、高校よりも高度に専門的となり、学生自身で考えるプロセスを踏んでいかないと次第に難しくなっていきます。

大学の授業は、学生のみなさんにある決まった知識を与えているのではなく、学生自身で考えるための材料を与えています。“大学で学ぶ”とは、授業を単に聞くことではなく、学生自身で考えることから始まります。疑問に感じたら、授業担当の教員に質問することが自分自身で考える良いきっかけになります。図書館に行って関連する書籍や文献を探して読んでみることもいいですね。

Q：学生が教員の研究室を訪ねていいですか？

A：授業内容について質問があるときは、事前に教員に連絡してから研究室を訪ねてください。連絡先は、学内で学務情報システムを経由することで、WEB シラバスから調べることができます。また、研究者総覧からも調べることができます。

オフィスアワーを設定している教員の場合は、事前の連絡は不要です。

連絡先を公開していない、またオフィスアワーを設定していない教員の場合は、授業後に質問してください。

Ⅲ. 本学の教育の仕組み

1. 学期と授業時間

(1) 2学期6ターム併用制について

本学の学事暦は、2学期6ターム併用制を採用し、授業科目はsemester科目（学期科目）とターム科目があります。

semester科目は、1年間を春学期と秋学期の2つの学期に分け、休業期間を除く16週の授業期間で完結する科目です。

ターム科目は、1年間を6つのタームに分け、春学期授業期間（第1・第2ターム）、秋学期授業期間（第4・第5ターム）で開講し、1ターム8週の授業期間で完結する科目です。

また、夏季休業期間（第3ターム）、春季休業期間（第6ターム）には、集中講義をターム科目として開講する場合があります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
春学期						秋学期						
春semester科目				夏季休業期間		秋semester科目			休	春季休業期間		
第1ターム科目		第2ターム科目		第3ターム科目		第4ターム科目		第5ターム科目		第6ターム科目		

(2) 全学教育科目の授業科目について

全学教育科目の授業科目の多くは、semester科目で開講され、春学期または秋学期に16週の授業期間で実施します。

ただし、一部の科目は、ターム科目1単位で開講されます。例えば、生物の世界Ⅰ（第1ターム1単位）、生物の世界Ⅱ（第2ターム1単位）は2科目セット履修を奨励しますが、単位認定は各々の授業科目ごとに行われます。

(3) 学事暦について

学事暦（前づけ）は、1年間の行事予定（入学式、定期試験や大学祭等）を次の記号で表示します。

無地（黒字） 授業を開講する日です。

灰地（黒字） 授業を開講しない日です。

太枠無地（黒字） 祝日において授業を開講する日です。

○囲み（黒字） 英語プレイズメントテスト、英語統一テストの実施日で1年生は原則として受験します。

黒地（白字） 定期試験期間です。なお、semester科目の場合、春学期前半（第1ターム）と秋学期前半（第4ターム）の試験期間は、通常どおり授業を行います。

灰地（白字） 定期試験期間の予備日です。なお、ターム科目の春学期前半（第1ターム）と秋学期前半（第4ターム）の試験の予備日は、あらかじめ設定されていないので、開講部局において別に定めます。

◇囲み（黒字） 授業振替日です。2026年10月28日（水）及び2026年12月24日（木）は金曜日の授業を実施します。

(4) 授業時間について

本学の授業時間は、以下のとおりです。

時 限	授業時間
第1時限	8 : 5 0 ~ 1 0 : 2 0
第2時限	1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
第3時限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
第4時限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0
第5時限	1 6 : 1 5 ~ 1 7 : 4 5
第6時限	1 7 : 5 0 ~ 1 9 : 2 0
第7時限	1 9 : 2 5 ~ 2 0 : 5 5

Q : ターム科目をあまり見かけないのですが？

A : 2 学期 6 ターム併用制は、2017 年度から導入し、ターム科目は都市科学部を中心に開講しています。

Q : 2 科目セット履修したターム科目「生物の世界 I・II」の第 1 ターム開講科目の単位は修得し、第 2 ターム開講科目の単位は落としましたが、どうすればいいですか？

A : 全学教育科目のほとんどがセメスター科目 (16 週) ですが、ターム科目 (8 週) が一部存在します。2 科目セット履修を奨励していますが、単位認定は各々の授業科目ごとに行われます。

したがって、「不可」となった第 2 ターム開講科目のみを翌年度以降に再履修するか、履修を放棄するかになります。ただし、履修を放棄する場合は、GPA の計算上不利になるので注意してください。

また、教職課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」の場合は、2 科目セット履修が義務付けられる場合がありますので、必ず確認してください。

Q : 英語統一テスト (TOEFL-ITP テスト) は必ず受講するのですか？

A : 英語統一テスト (TOEFL-ITP テスト) は必修科目「実践英語 LR」の定期試験として実施するため、1 年生は受験しなければなりません。4 月プレイスメントテストは「TOEFL レベル別クラス編成」のため、2 月英語統一テストは「実践英語 LR」の定期試験として実施します。

なお、2 月英語統一テストの際に TOEFL-ITP430 点以上のスコアを獲得できないと「実践英語 LR」の単位を修得できませんので、2 年次に再履修が必要となります。

なお、4 月プレイスメントテストは「TOEFL レベル別クラス編成」のために受講が必要です。

2. 全学教育科目の履修の流れ

全学教育科目の授業開始・履修登録から定期試験までの流れは、次のとおりです。

① 授業開始日	
春学期	春セメスター／第1ターム : 2026年 4月 8日 (水) ~ 第2ターム : 6月10日 (水) ~ 第3ターム (夏季休業期間): 8月 6日 (木) ~
秋学期	秋セメスター／第4ターム : 2026年10月 5日 (月) ~ 第5ターム : 12月 3日 (木) ~ 第6ターム (春季休業期間): 2027年 2月11日 (木) ~
② 履修登録期間	
春学期	春セメスター／第1・第2・第3ターム 2026年 4月 8日 (水) ~ 4月21日 (火)
秋学期	秋セメスター／第4・第5・第6ターム 2026年10月 5日 (月) ~ 10月16日 (金)
※履修希望学生が履修定員を上回る科目は授業開始第1週目または第2週目に「受講調整」を実施する。	
③ 履修登録確認・訂正期間	
春学期	春セメスター／第1・第2・第3ターム 2026年 4月24日 (金) ~ 4月28日 (火)
秋学期	秋セメスター／第4・第5・第6ターム 2026年10月21日 (水) ~ 10月23日 (金)
④ 履修登録キャンセル期間	
春学期	春セメスター／第1ターム 2026年 5月11日 (月) ~ 5月15日 (金) 第2ターム 2026年 6月22日 (月) ~ 6月26日 (金)
秋学期	秋セメスター／第4ターム 2026年11月 2日 (月) ~ 11月 9日 (金) 第5ターム 2026年12月 7日 (月) ~ 12月11日 (金)
※キャンセル期間以降に授業が開始する科目 (例えば、セメスター科目の集中・不定期科目、第3ターム (夏季休業期間) や第6ターム (春季休業期間) に実施される授業科目など) のキャンセルについては、その授業の初日の翌日 17時までに所属学部に出すこと。	
⑤ 定期試験期間	
春学期	第1ターム 2026年 6月 3日 (水) ~ 6月 9日 (火) 春セメスター／第2ターム 2026年 7月29日 (水) ~ 8月 5日 (水)
秋学期	第4ターム 2026年11月26日 (木) ~ 12月 2日 (水) 秋セメスター／第5ターム 2027年 2月 2日 (火) ~ 2月 9日 (火)
※第3ターム (夏季休業期間)、第6ターム (春季休業期間) 開講科目は教員からの指示による	

(1) 履修登録・履修登録期間について

履修登録とは、その学期 (セメスター科目・ターム科目) に履修しようとする授業科目を登録する手続きをいいます。

履修登録は、春学期と秋学期の各学期に分けて行います。また、ターム科目の履修も同様に学期ごとに行い、例えば第1ターム、第2ターム、第3タームに履修する授業科目は春学期履修登録期間に科目登

録を行います。

学期	履修登録対象科目
春学期	通年科目、春semester科目、第1ターム・第2ターム・第3タームに開講する科目
秋学期	秋semester科目、第4ターム・第5ターム・第6タームに開講する科目

履修登録は、学部指定のパソコン教室や自宅等からWEB上の「学務情報システム」にログインし、「履修登録期間」内に必ず手続を終える必要があります。

なお、学務情報システムの操作方法はログインページに掲載している「学務情報システムマニュアル」を参照してください。

(2) 履修確認・訂正期間について

履修確認・訂正期間には、履修時間割表を各自で印刷し、各自の履修計画どおりに履修登録されているか確認を行います。

履修確認の結果、履修計画どおり登録できなかつたり、受講調整による履修不許可であったり、エラー科目があつたりする場合は、訂正期間内に訂正を行います。なお、履修登録期間内に履修登録をしていないと、訂正を行うことができませんので、注意してください。

(3) 履修登録キャンセル期間について

履修確認・訂正期間の後に、授業内容が学生自身の予想や理解と異なっていた理由等により当該科目の履修を取りやめたい場合は、「履修登録キャンセル期間」内に学務情報システムで手続を行います。履修登録のキャンセル以外の手続はできません。

履修登録のキャンセル手続を行わずに履修を取りやめた場合は、その科目の成績は「不可」として取り扱われ、GPAの計算上不利になるので注意してください。

なお、キャンセル期間以降に授業が開始する科目（例えば、semester科目の集中・不定期科目、第3ターム（夏季休業期間）や第6ターム（春季休業期間）に実施される授業科目など）の履修登録キャンセルについては、その授業の初日の翌日17時まで所属学部に申し出ること。

(4) 補講の実施について

全学教育科目では、台風等気象警報の発令をはじめ諸処の理由等による休講により生じた授業の不足分を補うため、科目担当教員の判断により授業開講日以外に補講を実施することがあります。補講の実施日及び時限等については、担当教員から別途連絡いたします。

(5) 定期試験について

全学教育科目の単位は、原則として試験を行った上でその成績により授与されます。

試験は、原則としてsemester科目、ターム科目ごとに定期試験期間を定めていますが、科目担当教員の判断により定期試験期間以外に行うことがあります。

3. 全学教育科目の履修手続の詳細

全学教育科目の履修には、履修登録を行う必要があります。

履修登録の方法及び日程については、この履修案内のほか、所属学部のオリエンテーションまたは授業支援システム (LMS) により連絡します。特に、英語科目は入学時のプレースメントテスト (TOEFL-ITP テスト) によるレベル別指定クラスとなりますので、必ず授業支援システム (LMS) 等を確認してください。

(1) 受講調整

全学教育科目は、適正な授業運営や教育効果の維持、教室の収容能力により各授業科目に履修定員が設定され、履修学生数の上限を定めています。履修を希望する学生が当該授業科目の履修定員を上回る場合は受講調整を行います。事前に履修希望を申し出なかった学生 (受講調整を実施する日に授業を欠席した者) は履修できません。

受講調整の詳細な情報は、授業支援システムで公表します。なお、必修科目の履修希望学生と3年次・4年次以上の履修希望学生が優先されることになります。

受講調整の結果は、翌週の授業の前日まで (月曜開講の科目は直前の金曜まで) に授業支援システムで発表します。受講調整を実施した科目は、受講を許可された学生しか履修登録できないので注意してください。受講調整の結果、落選した科目は学務情報システムに履修登録したままでは登録エラーになりますので、履修確認・訂正期間終了時までには該当科目をキャンセルしてください。

(2) 履修登録後の留意点

履修登録完了後 (履修確認・訂正期間後) は登録した科目の変更は認められません。履修確認・訂正期間終了までに学生自身が必ず学務情報システムから履修時間割表を印刷して内容を実際に確認してください。

履修確認・訂正期間後に本人の確認不足等の理由により履修登録科目の訂正を申し出ても認められません。

履修登録後、登録授業科目を履修しない場合 (授業内容が予想や理解と異なっていた等) は、履修登録キャンセル期間中に履修科目のキャンセル手続を行うことができます。手続をしない場合は、当該授業科目の評価は「不可」となり、GPAの計算上不利になるので注意してください。

Q : 履修時間割表には、月曜日から金曜日まで授業を入れなければならないですか？

A : 高校までとは異なり、卒業に必要な科目・単位数を確認し、無理なく十分な学修時間が確保できるよう履修計画 (履修時間割表) を作成しましょう。また、所属学部では、履修登録の上限 (全学教育科目は Semester 12 単位) が設定されており、必ずしもすべての曜日・時限に授業が入ることはありません。

Q : 全学教育科目は、初回授業から必ず教科書が必要ですか？

A : 必修科目以外の科目ならば、WEB シラバスや授業支援システム (LMS) 等で指示がない限り、教科書を購入せずに初回授業に参加しても構いません。教科書を購入して授業に参加しても、受講調整によってその授業が履修できなくなることがあります。

IV. 全学教育科目の履修方法

1. 全学教育科目履修基準について

全学教育科目の履修基準は、入学年度ごとに学生の所属学部の学科等（学士プログラム）において「卒業に必要な修得すべき単位数」の基準として定めており、その基準に従って履修しなければなりません（2026年度入学者は P.15 履修基準表参照）。

2. 全学教育科目の履修登録単位数の上限について

全学教育科目の履修登録は、春semester（第1ターム及び第2タームの合計）12単位、秋semester（第4ターム及び第5タームの合計）12単位が上限です。この上限を超えて履修登録はできません。

この履修登録の上限には、YNU リテラシーの他、夏季休業期間（第3ターム）及び春季休業期間（第6ターム）に開講する集中講義、別に掲示するsemester科目の集中・不定期開講科目、放送大学科目は含まれません。

その他履修登録単位数に問題がないにもかかわらずエラー表示が発生している場合は、受講調整の結果落選した科目が登録されたままになっている、本来履修できない科目を履修登録しているなどを確認してください。解決しない場合は、所属学部の学務担当窓口で確認してください。

2026 年度入学者 全学教育科目履修基準表<単位>

学部	学科・課程・EP等	科目区分							YNU リテラー	全学教育 科目合計
		生命・自然 (life,nature)	こと・もの (thing)	数理・デー タサイエンス・ AI 入門	かかわり (relations)	外国語科目	国際的 視点か ら考 える協働 ラボ			
教育学部	学校教員養成課程	4 以上	6 以上	2	8 以上	英語 4 以上	2	1	19 以上 ^{※1}	
経済学部	経済学科	2 以上	4 以上	2	10 以上	英語 8 以上 ^{※2}	-	1	31 以上	
	経済学科 DSEP									
	経済学科 LBEEP	2 以上	6 以上	2	10 以上					
経営学部	経営学科	4 以上	4 以上	2	10 以上	英語 6 以上	-	1	30 以上	
	経営学科 DSEP	4 以上	6 以上	2	10 以上	英語 6 以上		1		
理工学部	機械・材 料・海洋 系学科	機械工学 EP	1 以上	4 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	24 以上
		材料工学 EP	2 以上	3 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	26 以上
		海洋空間の システム デザイン EP	2 以上	6 以上	2	12 以上	英語 8 以上	2	1	24 以上
	化学・生 命系学 科	全 EP	4 以上	6 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	30 以上
	数物・電 子情報 系学科	数理学 EP	4 以上	4 以上	2	15 以上	英語 8 以上 初修外国語 4 以上	2	1	30 以上
		物理工学 EP	3 以上	3 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	24 以上
		電子情報 システム EP	2 以上	2 以上	2	10 以上	英語 8 以上	2	1	20 以上
		情報工学 EP	4 以上	3 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	24 以上
	都市科学部	都市社会共生学科	2 以上	4 以上	2	17 以上	英語 6 以上 初修外国語 4 以上 外国語科目合計 12 以上 ^{※3}	2	1	31 以上
		建築学科	2 以上	4 以上	2	15 以上	英語 8 以上 初修外国語 4 以上	2	1	31 以上
都市基盤学科		2 以上	4 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	31 以上	
環境リスク共生学 科		2 以上	4 以上	2	11 以上	英語 8 以上	2	1	31 以上	

※1 教育学部の履修方法の詳細は、学部の履修手引を確認してください。

※2 経済学部の英語科目 8 単位以上には、経済学部が開講する英語演習科目の単位数が含まれます。詳細は学部の履修案内を確認してください。

※3 都市科学部都市社会共生学科の外国語科目のうち英語と初修外国語の最小単位の加算を超える 2 単位は、英語または初修外国語科目から選択して履修してください。

★ 上記と学部の履修基準表（履修案内）と相違がある場合には、学部の履修基準表を正としてください。

★ 各科目区分の必修単位数には、「履修上の注意」（P.16）に記載の各学部等必修科目の単位数を含みます。

- ★ 外国語科目の必修科目は、P.16の「外国語科目履修基準表」をあわせて参照してください。
- ★ YNUリテラシーは、「生命・自然」、「こと・もの」、「かかわり」の科目区分外に設定されています。
- ★ 「こと・もの」の必修単位数には、数理・データサイエンス・AI入門の単位数を含みます。
- ★ 「かかわり」の必修単位数には、外国語科目及び国際的視点から考える協働ラボ（TIPs）の単位数を含みます。
- ★ 学部向け大学院全学教育科目の取扱いは、P.44を確認してください。

履修上の注意（各学部の必修科目等）

各学部共通	健康スポーツ科目は、2単位を上限に全学教育科目の単位に参入可
教育学部	『日本国憲法』（こと・もの）、『健康スポーツ演習A』（生命・自然）は必修
経済学部	<LBEEP> 『現代政治（日本）』（こと・もの）、『現代政治（国際）』（こと・もの）、『日本国憲法』（こと・もの）、『現代社会と法』（こと・もの）、『社会の制度を考える』（こと・もの）から4単位を選択必修
経営学部	【一般プログラム】『統計学基礎』（生命・自然）、『統計データ分析』（生命・自然）は必修 【DSEP】『統計学基礎』（生命・自然）『統計データ分析』（生命・自然）『アントレプレナーシップ論』（こと・もの）『経営者から学ぶリーダーシップと経営理論』（こと・もの）は必修
理工学部	<機械工学 EP> 『機械工学と社会とのかかわり合い』（こと・もの）は必修 <材料工学 EP> 『材料学入門』（生命・自然）は必修 <海洋空間のシステムデザイン EP> 『海洋工学と社会』（こと・もの）、『海事技術史』（こと・もの）は必修 <化学・生命系学科各 EP 共通> 『物質工学と社会』（こと・もの）、『安全・環境と社会』（こと・もの）、『エネルギー工学序論』（こと・もの）を必ず履修（単位修得は必須としない） <数理科学 EP> 『数理科学概論』（生命・自然）は必修 <物理工学 EP> 『物理工学概論』（生命・自然）は必修 <電子情報システム EP> 『電子情報システム概論』（生命・自然）は必修 <情報工学 EP> 『情報工学概論』（生命・自然）は必修

外国語科目履修基準表<単位>

学部	学科・課程・EP等	英語			初修外国語	備考	
		実践英語	応用英語	計			
教育学部	学校教員養成課程	4以上	-	4以上	-	実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語LR」を必修	
経済学部	経済学科	4以上	4以上	8以上	-	実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語LR」を必修 応用英語は、経済学部が開講する演習科目を必修	
	経済学科 DSEP						
	経済学科 LBEEP						
経営学部	経営学科	4以上	2以上	6以上	-	実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語LR」を必修	
	経営学科 DSEP						
理工学部	機械・材料・海洋系学科	機械工学 EP	6以上	2以上	8以上	-	
		材料工学 EP	6以上	2以上	8以上	-	
		海洋空間のシステムデザイン EP	6以上	2以上	8以上	-	
	化学・生命系学科	全 EP	6以上	2以上	8以上	-	
		数物・電子情報系学科	数理科学 EP	6以上	2以上	8以上	4以上
	物理工学 EP		6以上	2以上	8以上	-	

		電子情報システム EP	6 以上	2 以上	8 以上	-	
		情報工学 EP	6 以上	2 以上	8 以上	-	
都市科学部	都市社会共生学科		4 以上	2 以上	6 以上	4 以上	外国語科目合計 12 単位以上 実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、 「実践英語 LR」を必修（「実践英語ライティング」は選択科目として外国語科目の 単位に算入可）
	建築学科		6 以上	2 以上	8 以上	4 以上	
	都市基盤学科		6 以上	2 以上	8 以上	-	
	環境リスク共生学科		6 以上	2 以上	8 以上	-	

★経済学部の実用英語には、学部が開講する英語演習科目の単位数を含みます。

3. 全学教育科目の履修について

(1) 開講時限について

時限	月	火	水	木	金
1 限		初修外国語			初修外国語
2 限	実践英語	初修外国語		実践英語	初修外国語
3 限	実践英語/TIPs	応用英語 (2 年次)	応用英語 (2 年次)	実践英語/TIPs	
4 限	実践英語/TIPs	応用英語 (2 年次)	応用英語 (2 年次)	実践英語/TIPs	
5 限					

※TIPs=国際的視点から考える協働ラボ (Topics in International Perspective)

※外国語以外の全学教育科目は、グレー色の時間帯を中心に開設していますが、それ以外の曜日・時限にも開設しています。各科目の開講曜日・時限は全学教育科目時間割表 (別途掲示) を確認してください。

(2) 履修方法の一般的注意について

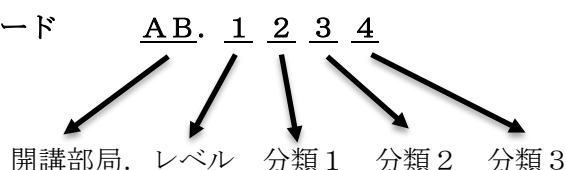
- ① 履修登録していない授業科目は履修できません。
- ② 同一時間帯に 2 つ以上の授業科目を履修登録できません。
※開講時限が『オンデマンド』となっているオンデマンド科目は重複して履修登録できます
- ③ 学科等 (学士プログラム) においてクラス指定している授業科目は、原則として指定されたクラス以外の学生は履修できません。
- ④ 同じ名称の授業科目が複数開講されている科目 (例えば「日本国憲法」等) は、異なる教員、異なる学期、曜日、時限であっても 1 つの授業科目として取り扱います。
同じ名称の授業科目が複数開講されている場合は、クラス指定や別の指示がなければ、1 つの授業科目のみを選択履修してください。
- ⑤ 休講、教室変更、試験通知等は、その都度授業支援システム、オンライン掲示板等によって案内しますので、常に確認してください。
- ⑥ その他不明な点は、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

(3) 科目ナンバリングについて

本学は、従来の教養教育・専門教育という枠組みを廃止し、「全学教育」「学部教育」とする“学士の学位を授与する教育課程プログラム”（学士プログラム）単位でカリキュラムを編成しています。

本学の全学教育システムは、学部教育科目と並行して、学部4年間を通じた履修（いわゆるパラレル型履修）とする学位プログラムごとのカリキュラムポリシーに基づく順次性のある体系的な教育課程を編成するため、科目ナンバリングを導入しています。分類コードは次ページの表（P.20）のとおりです。多様な全学教育科目において科目名から科目の扱う学問分野が類推できない場合などに、分類1～3を利用することで、ある程度把握できるようになっています。

YNU ナンバリングコード



レベルコード

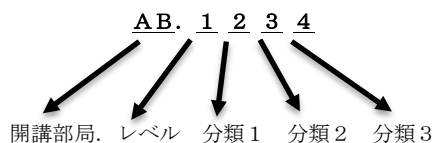
レベルコード	学生が身に付ける能力
1000 番台 初年次・導入科目	◎学部生として、また社会の一員として基本的な知識と教養、英語力を身に付ける（2000・3000 番台を除く）。 ◎学部教育に必要な知識を身に付ける。
2000 番台 基礎・基盤科目	◎学部教育の専門知識を基礎・基盤とした発想力、創造力、英語力を身に付ける。 ◎英語以外の外国語力を身に付ける。
3000 番台 展開・実践科目	◎学部教育で展開または実践する知識と幅広い教養、語学力、表現力を身に付ける。 ◎専門分野及び関連する他の分野における知識を身に付ける。
4000 番台 発展科目	<修士課程、博士課程前期、専門職大学院課程> 大学院全学教育科目 ◎学士レベルの知識・教養から、修士又は専門職レベルに発展させ、大学院生として必要な知識とプロフェッショナル意識を身に付ける。 ◎文理融合教育やグローバル・ローカル教育を実践し、修士レベルの関連分野の基礎的素養を身に付ける。
5000 番台 自立科目	<修士課程、博士課程前期、専門職大学院課程>
6000 番台 先進科目	<博士課程後期>
9000 番台 その他科目	◎海外留学や語学検定など順次性や体系的な科目履修が必要ない科目、レベル分けが困難な科目、放送大学科目等

分類コード（全学教育科目）

分類1		分類2		分類3	
コード	科目分野	コード	学問分野・領域	コード	使用言語
1	人文社会	1	哲学・倫理学	1	日本語
		2	芸術学	2	英語
		3	文学・言語学	3	日英併用
		4	史学・地理学		
		5	文化人類学	4	その他
		6	法学・政治学		
		7	経済学・経営学		
		8	教育学・社会学		
		9	その他の分野		
2	自然科学	1	数学		
		2	物理学		
		3	化学		
		4	生物学		
		5	工学		
		6	情報学		
		7	環境学		
		8	健康・生活科学		
		9	その他の分野		
3	英語	1	英語実習・TOEFL430		
		2	TOEFL450		
		3	TOEFL500		
		4	TOEFL520		
		5	TOEFL550		
4	初修外国語	1	ドイツ語		
		2	フランス語		
		3	イスパニア語		
		4	ロシア語		
		5	中国語		
		7	ギリシア語（注）		
		8	ラテン語（注）		

分類1		分類2		分類3	
コード	科目分野	コード	学問分野・領域	コード	使用言語
5	日本語	1	レベル 100	1	日本語
		2	レベル 200	2	英語
		3	レベル 300	3	日英併用
		4	レベル 400		
		5	レベル 500・中級	4	その他
		6	レベル 600・上級		
		7	日本語演習		
6	健康スポーツ	1	演習 A（教育）		
		2	演習 B（共通）		
7	国際理解	1	世界事情		
		2	国際交流		
		3	国際共修		
8	イノベーション教育	1	入門的基幹知（領域）		
		2	技術革新思考（領域）		
		3	社会実装戦略（領域）		
		4	キャリア形成実践知（領域）		
9	放送大学	1	基盤科目		
		2	導入科目		
		3	専門科目		
		4	総合科目		
		5	英語		
		6	初修外国語		

YNU ナンバリングコード



（注）2026 年度以降の入学者は、ギリシア語、ラテン語は卒業に必要な外国語の単位に算入されません

開講部局コード（全学教育科目）

記号	開講部局
GS	教育学部
GE	経済学部
GB	経営学部
GR	理工学部
GU	都市科学部
GL	国際社会科学府
GZ	その他

記号	開講部局	
GQ	国際	企画推進部門
GN	戦略	英語教育部
GF	推進	初修外国語教育部
GJ	機構	日本語教育部
GT		ソクラテスプログラム
GI	情報基盤センター	
GK	機器分析評価センター	

記号	開講部局
GX	教育推進機構
GD	ダイバーシティ戦略推進本部
GP	リスク共生社会創造センター
GC	地域実践教育研究センター
GG	成長戦略研究センター
GH	保健管理センター

(4) 科目分野について

①人文社会

②自然科学

①、②ともに教養教育の中心となる科目群であり、基礎学力、論理的思考力、問題解決能力など学部生として、また社会の一員として基本的な知識と教養、学部教育に必要な知識を身に付けます。

③英語

すべて TOEFL レベル別の指定クラス編成とし、学生の所属学部の学科等（学士プログラム）が指定する英語科目を履修します。

履修の詳細は「4. 英語科目の履修について」（P.22）を参照してください。

④初修外国語科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、の5言語を開講します。

履修の詳細は「5. 初修外国語科目の履修について」（P.31）を参照してください。

⑤日本語科目（留学生向け）

留学生のみが履修できる科目として開講し、大学で学習する上で必要な日本語力を育成します。入学時の日本語力のレベルにより、1年春学期に履修することができる日本語クラスのレベル（中級・上級）を指定します。外国語科目との代替単位は所属学部の学科等（学士プログラム）により異なります。

履修の詳細は「13. 留学生のための授業科目の履修について」（P.42）を参照してください。

⑥健康スポーツ

健康スポーツ科目群は、スポーツを楽しむことを通じ、心身の健康、体力の向上、生涯スポーツ活動への関心を高め、心身のバランスのとれた学生を育成します。世界の長寿国である日本の平均寿命は高いものの健康寿命との差は10歳以上あります。健康寿命が長い人と短い人の差は引退後の日常生活ではなく、とりわけ10代後半から20代までの生活習慣（運動や食生活）の差にあります。わが国では、小学校・中学校・高等学校において体育は必修科目ですが、本学では教育職員免許状取得学生以外は選択科目です。2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催によって、スポーツへの関心が高まった現在、自分のからだを育てるスポーツの重要性を実感できるのが、健康スポーツ科目です。

履修の詳細は「8. 健康スポーツ科目について」（P.38）を参照してください。

⑦国際理解

グローバル人材に必要とされる主体的な異文化適応力や外国の知識・教養などを学ぶ科目群です。世界事情、国際交流、国際共修の各学問分野に係る科目を開講します。

各学問分野の詳細は「9. 世界事情及び国際交流科目群の履修について」及び「10. 国際的視点から考える協働ラボについて」（P.39）を参照してください。

⑧イノベーション教育

イノベーションとは、新しい価値の創造をもたらす革新のことです。イノベーション教育科目では、イノベーションの基本と価値観やパラダイムのイノベーションについて学ぶ入門的基幹知（領域）、科学技術そのもののイノベーションについて学ぶ技術革新思考（領域）、制度や社会システムのイノベーションについて学ぶ社会実装戦略（領域）、主体的な学びの姿勢を養い自律的キャリア形成を促すキャリア形成実践知（領域）の4つの領域を設定しています。

履修の詳細は「11. イノベーション教育科目群の履修について」（P.40）を参照してください。

⑨放送大学

幅広い教養や自らの関心を深め、視野を広げるため、放送大学科目（特別聴講学生）を履修することができます。

履修の詳細は「12. 放送大学科目の履修について」(P.41)を参照してください。

4. 英語科目の履修について

本学では、全学教育 / 教養教育の目標である「国際感覚を養い、異文化への理解を深め、十分なコミュニケーション力を高める」ことを実現するため、英語教育は特に重要と位置づけており、英語の4技能「聞く (Listening)、読む (Reading)、話す (Speaking)、書く (Writing)」を網羅する複数の科目を開講しています。学生は、所属学部の学科等 (学士プログラム) が指定する英語科目を履修します。また、卒業に必要な英語科目の履修単位数も、学士プログラムごとに指定されています。

英語科目によっては、履修するために必要な TOEFL-ITP スコアが指定されています ((2) の表参照)。例えば、応用英語 1 を履修するには TOEFL-ITP 450 点以上のスコアが必要です。これらは履修するための条件なので、「応用英語 1」を 2 年次に履修するためには、1 年次初めのプレACEMENTテストや 1 年次末の英語統一テスト等で、2 年次の開始までに履修条件を満たすスコアを取得しておかなければなりません。また、3 年次以降では「TOEFL-ITP 学内実施」等でより高いスコアを取得することで、大学院進学や卒業後のキャリア形成を目指す「応用英語 2a」「応用英語 2b」といった、より高度な英語科目を履修することができます。

(1) 英語科目の編成 (セメスター科目)

英語科目は、「実践英語」の諸科目、「応用英語 1」、そして「応用英語 2」で編成されています。「実践英語」は、一般的な英語の運用能力を向上させる授業内容です。「応用英語 1」は、各学部の専門に近い内容で、「リーディングと語彙 (Reading & Vocabulary: RV)」と「リスニングとスピーキング (Listening & Speaking: LS)」の向上に焦点を当てた 2 つのフォーカスタイプのいずれかを選択し、履修します。「実践英語」も「応用英語 1」も、90 分授業を 15 回 (定期試験を除く) 履修することにより 2 単位取得する科目であり、授業時間内の実践的な学習と相応な授業時間外学習が求められます。「応用英語 2」は大学院進学や卒業後のキャリア形成等を視野に入れた、より高度な英語科目です。

(2) 英語科目の履修の流れ

授業科目名 (必要なスコア)	単位	ナンバ リング	○: 必修 ◇: 自由選択 無印: 履修しない					履修年次 (科目区分)
			教育	経済	経営	理工	都市科学	
実践英語プレゼンテーション	2	1000	○	○	○	○	○	1 年次から (実践英語)
実践英語ライティング	2					○	◇都市社会共生学科 ○上記以外の学科	
実践英語 LR	2		○	○	○	○	○	
応用英語 1 (ITP 450 点)	2	2000			○	○	○	2 年次から (応用英語)
応用英語 2 a (ITP 520 点)	2	3000	◇	◇				3 年次から (応用英語)
応用英語 2 b (ITP 550 点)	2				◇	◇	◇	

※ ◇については、選択履修した場合、どの科目区分の単位に算入されるのか、【学部ごとの履修フロー】(P.26 以降)で確認してください。

(3) 1年次実践英語科目の履修方法

1年次英語科目である「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語ライティング」、「実践英語 LR (Listening・Reading)」では、入学時実施の TOEFL-ITP を利用したプレイスメントテストのスコアに基づきレベル別にクラスが指定されます。

1年次実践英語科目の指定クラス開講曜日・時限

時限	月	火	水	木
2	<P (春)・LR (秋) > 経済			<P (春)・LR (秋) > 経営
3	<TIPs (春)・LR (秋) > 理工－電子情報 都市－都市社会 A、都市基盤、 環境リスク <P・W (春 or 秋) > 理工－機械工学、材料工学、 海洋空間、物理工学			<TIPs (春)・LR (秋) > 理工－機械工学、材料工学、化学・生命系 <P (春 or 秋) > 教育 A <P・W (春 or 秋) > 理工－電子情報、数理科学 都市－都市社会 A
4	<TIPs (春)・LR (秋) > 教育 理工－情報工学、数理科学 <P・W (春 or 秋) > 理工－化学・生命系 都市－都市社会 B、建築			<TIPs (春)・LR (秋) > 理工－海洋空間、物理工学 都市－都市社会 B、建築 <P (春 or 秋) > 教育 B <P・W (春 or 秋) > 理工－情報工学 都市－都市基盤、環境リスク

※TIPs=国際的視点から考える協働ラボ (Topics in International Perspective)、LR=実践英語 LR、P=実践英語プレゼンテーション、W=実践英語ライティング。TIPsについてはP.39を参照してください。

※〇〇A、〇〇Bはクラス編成の都合により同一学部等で履修者を分割する。

(4) 英語統一テスト (TOEFL-ITP) の受験資格と目的

英語統一テストの受験資格は、秋学期に開講される「実践英語 LR」科目を履修登録している全ての1年次に付与されます。「実践英語 LR」の単位取得には、本テストにおいて430点以上のスコアを取得することが必須条件となっています。詳細については、秋学期に配布される資料を確認してください。

英語テストには「TOEFL-ITP (Institutional Testing Program)」を使用します。TOEFL-ITPは、TOEFL PBT (Paper-Based Test、満点677点)と同形式で実施される団体向けテストです。このスコアは、公式のTOEFLスコア (TOEFL-iBT等)としての提出はできませんが、PBTスコアと同等と見なされており、英語力の客観的な把握に有効です。また、TOEFL-iBT、TOEIC、IELTSなどの他の外部検定試験との換算表も公表されているため、自身の英語力を多面的に理解し、今後の受験戦略を考える上での参考とすることが可能です。将来的に外部試験へ挑戦する際の第一歩として、本テストを積極的に活用してください。

(5) 1年次 実践英語科目の再履修方法

1年次 実践英語 3科目のうち、春学期の「実践英語プレゼンテーション」と「実践英語ライティング」(必修学部・学科のみ)の単位を取得できなかった場合、秋学期の同じ名称の授業ではなく、2年次に再履修することになります。秋学期に単位を取得できなかった場合も2年次に再履修してください。2年次以降の再履修では履修学期の指定はありません。1年次の履修が秋学期の場合でも春学期に再履修できます。

秋学期にのみ開講される「実践英語 LR」の単位を取得できなかった場合は、2年次に、各学期オンデマ

ンド形式で開講される「実践英語 LR 再履修」を受講してください。再履修に関する不明な点は、英語教育部（教育推進機構棟（S5-2））に遠慮なく相談してください。

（6）2年次以降の応用英語1の履修方法

応用英語1は、2年次以降の履修科目であり、最低でもTOEFL-ITP450点以上のスコア取得が必要です。本学の学生は、2年次進級までに、入学時のプレイスメントテストと1年次秋学期末の英語統一テストの合計2回、TOEFL-ITPを受験しますが、それらで取得したTOEFL-ITPのスコアがTOEFL-ITP450点に満たない（449点までの）学生が応用英語科目を履修するためには、独学で勉強し、TOEFL-ITP学内実施（任意・不定期）または学外の外部検定試験を受験し、TOEFL-ITP450点以上のスコアを獲得しなければなりません。英検等の外部検定試験でTOEFL-ITP換算点で450点以上になるスコアを獲得した場合には、スコアカードを教育企画課全学教育係に提出してください。TOEFL-ITP学内実施を受験し450点以上を獲得した場合には、そのスコアは、学務情報システムに自動的に反映されますので、スコアカードの提出は不要です。スコア提出は所定の期間に申請を受け付けますので、詳細は、別途掲示される資料を参照してください。

応用英語1でも、1年次の実践英語科目と同様、TOEFL-ITPのスコアに基づきレベル別にクラスが指定されますが、指定されたそれぞれのレベルには以下の2つの系列があり、いずれかを選択することができます。

「RV (Reading & Vocabulary) フォーカス」：読解力と語彙力の強化に焦点を当てた授業内容

「LS (Listening & Speaking) フォーカス」：聞く力と話す力の強化に焦点を当てた授業内容

どちらを選択するかアンケート調査は、前年の秋に行われます。

1年次の実践英語で「不合格」または「未履修」の科目があっても、TOEFL-ITPのスコアの条件を満たしていれば、応用英語1を履修することができます。

2年次 応用英語1の指定クラス開講曜日・時限

時限	月	火	水	木
3		<春> 理工—化学・生命系 <秋> 理工—材料工学、電子情報	<春 or 秋> 経営	
4		<春> 理工—機械工学、海洋空間、数理科学 <秋> 理工—情報工学、物理工学	<春> 都市—都市社会共生、建築 <秋> 都市—都市社会共生、都市基盤、環境リスク	

※応用英語1が自由選択科目である経済学部と教育学部の学生が応用英語1の受講を希望する場合には、どの授業が適しているのか等、英語教育部に相談してください。

（7）3年次以降の応用英語2の履修方法

海外にて提供されているオンライン講座を、各自のレベルと興味に応じて選択する応用英語2は、3年次以降の自由選択科目で、卒業研究、大学院進学、キャリア形成、海外研修帰国後の英語力維持・向上、等に寄与する目的で提供されます。応用英語2では応用英語1以上に自身の専門分野を自ら英語で掘り下げる自律的な学習が求められます。履修登録期間や授業期間が他の科目と異なりますので、別途掲示される資料を入念に確認してください。

応用英語 2 も、入学以降に取得した TOEFL-ITP の最高得点によって履修の可否が決まります。

「応用英語 2a」：TOEFL-ITP 520 点以上

「応用英語 2b」：TOEFL-ITP 550 点以上

TOEFL-ITP 550 点以上のスコアを所有していても、「応用英語 2a」を履修することが可能です。

再履修となった場合には「応用英語 2a」「応用英語 2b」のどちらを選択しても構いません。

1 年次の実践英語で「不合格」または「未履修」の科目があっても、TOEFL-ITP のスコアの条件を満たしていれば、応用英語科目を履修することができます。

TOEFL-ITP 以外の外部検定試験の場合は、次のスコア換算表を基準にしてください。

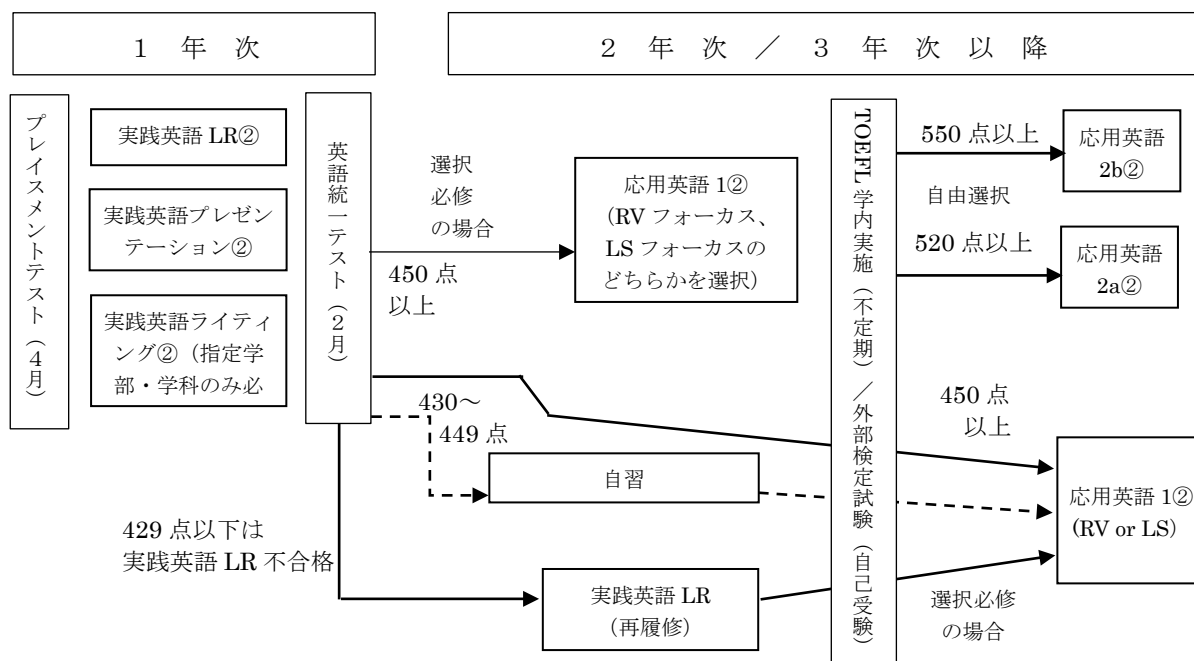
TOEFL ITP	TOEFL iBT*1	TOEIC	IELTS	英検 CSE*2
430	43(2.625)	410	-	1800
450	45 (2.875)	445	4.5	2000
500	61 (3.375)	590	5	2200
520	68 (3.625)	645	5.5	2300
550	80 (4)	730	6	2450
600	100 (5)	880	7	2560

*1 TOEFL iBT: 括弧の前に記載した数値は、2026 年 1 月 21 日以前に受験した者のスコアレポートに記載された 120 点満点のスコアに基づく換算点。括弧内に記載した数値は、2026 年 1 月 21 日に導入された「スコアバンド方式」を用いた場合の換算点。なお、スコアバンド方式による換算は、平均値を最も近い 0.5 に丸めて算出される「総合スコア (Overall Band Score)」ではなく、4 技能のバンドスコアの単純平均を判断基準とする。

*2 英検: 合格級ではなく英検 CSE スコアに基づいて判断する。

※上表以外の外部検定試験の場合は英語教育部に問い合わせてください。

【実践英語科目から応用英語科目を履修する場合のフロー】 ※○数字は単位数を示す。



※経済学部の学生は、2 年次以降上記フローと異なります。詳細は P.26 経済学部の履修方法を確認してください。

※実践英語科目の中で不合格または未履修の科目があっても、TOEFL-ITP のスコアの条件を満たしていれば、応用英語科目を履修することはできます。

【学部ごとの履修フロー】

①教育学部

教育学部 英語科目：4 単位以上

履修年次	必修 4 単位	
1 年次	実践英語 LR	2 単位
	実践英語プレゼンテーション	2 単位

卒業に必要な英語科目 4 単位に加えて、以下の「応用英語 1」「応用英語 2」の履修ができます。

これらの科目は自由選択科目として、卒業に必要な全学教育科目の単位に算入できます。履修を希望する場合は、該当するページの履修方法に従い、履修期間内に英語教育部の履修相談を受けてください。

履修年次	自由選択科目	
2 年次	応用英語 1	2 単位
	ターゲット英語 (p30 参照)	
3 年次	応用英語 2a	各 2 単位
	応用英語 2b	

◆2 年次以降
「応用英語 1」(TOEFL 450 点以上)
「ターゲット英語」

◆3 年次以降
「応用英語 2a」(TOEFL 520 点以上)
「応用英語 2b」(TOEFL 550 点以上)

②経済学部

経済学部 英語科目：8 単位以上

履修年次	必修 8 単位	
1 年次	実践英語 LR	2 単位
	実践英語プレゼンテーション	2 単位
2 年次	EAP 2 単位	指定されたクラス 2 科目 4 単位
	EEB 2 単位	
	Advanced EAP A 2 単位	
	Advanced EAP B 2 単位	

経済学部の卒業に必要な英語科目の 8 単位については、英語教育部開講の「実践英語 LR」「実践英語プレゼンテーション」に加え、経済学部教育科目の英語演習科目

「English for Academic Purpose(EAP)」
「English for Economics and Business(EEB)」
「Advanced EAP A」
「Advanced EAP B」

履修年次	自由選択科目	
2 年次	応用英語 1 各 2 単位	ターゲット英語 (p30 参照)
	ターゲット英語 (p30 参照)	
3 年次	応用英語 2a, 2b 各 2 単位	

の 4 科目のうち指定されたクラスの 2 科目 4 単位となります。

経済学部生の卒業に必要な英語 8 単位の履修方法は、経済学部履修案内で必ず確認してください。

また、卒業に必要な英語科目の 8 単位に加えて、以下の英語演習科目の履修ができます。これらの科目は自由選択科目として、外国語科目の単位に算入できます。
(ただし、卒業に必要な英語科目の必修 8 単位に含めることはできません。)

これらの科目の履修を希望する場合は P.24 の履修方法に従い、履修期間内に英語教育部の履修相談を受け、かつ、経済学務係に必ず申し出てください。

◆2 年次以降
「応用英語 1」(履修条件：TOEFL 450 点以上)
「ターゲット英語」

◆3 年次以降
「応用英語 2a」(履修条件：TOEFL 520 点以上)
「応用英語 2b」(履修条件：TOEFL 550 点以上)

③経営学部

経営学部 英語科目：6単位以上

履修年次	必修 6単位	
1年次	実践英語 LR	2単位
	実践英語プレゼンテーション	2単位
2年次	応用英語 1	2単位

履修年次	自由選択科目	
2年次	ターゲット英語 2単位	
3年次	応用英語 2a	2単位
	応用英語 2b	2単位

- また、卒業に必要な英語科目の6単位に加えて、表に記載がある「自由選択科目」にある英語科目の履修ができます。
 - これらの科目は自由選択科目として、卒業に必要な全学教育科目の単位（かかわり）に算入できます。
 - 英語科目における自由選択科目の履修を希望する場合はp.24の履修方法に従い、履修期間内に英語教育部の履修相談を受け、履修登録の指示に従って下さい。
- ※「応用英語 2a」又は「応用英語 2b」については、「応用英語 1」の読み替え科目として単位の取得が可能です。
- ※「ターゲット英語」については「応用英語 1」の読替は出来ません。

経営学部の卒業に必要な英語科目（必修6単位）は、英語教育部開講の以下の3科目6単位です。p.23～25を確認の上、履修登録をして下さい。

- 「実践英語 LR」（1年次）
- 「実践英語プレゼンテーション」（1年次）
- 「応用英語 1」（2年次）

《1年次》

「実践英語プレゼンテーション」「実践英語 LR」

→p.23-24の通り、レベル別でクラスが分けられるため、指定されたクラスの履修登録を行って下さい。

《2年次》

「応用英語 1」

→p.24(6)の通り、TOEFL-ITPスコアによる履修条件があり、基準を満たしていない場合は履修ができません。

④理工学部

理工学部 英語科目：8単位以上

履修年次	必修 8単位	
1年次	実践英語 LR	2単位
	実践英語プレゼンテーション	2単位
	実践英語ライティング	2単位
2年次	応用英語 1 2単位 ◆自由選択科目 ターゲット英語 (p30 参照) の単位取得でも代替可【条件有】	
3年次	※自由選択科目 応用英語 2a, 2b での 代替は不可	

理工学部の卒業に必要な英語科目の6単位については、英語教育部開講の実践英語科目である「実践英語 LR」「実践英語プレゼンテーション」「実践英語ライティング」(各2単位)を1年次に指定クラスの曜日・時限で履修します。

さらに次ページ以降のように「応用英語 1」(2単位)を2年次に履修します。

なお、応用英語科目は2年次の年度では2単位を超えて履修登録できません。

履修年次	自由選択科目	
2年次	ターゲット英語 (p30 参照)	
3年次	応用英語 2a, 2b 各2単位	

以下の「ターゲット英語」について、選択必修科目として外国語科目の卒業に必要な単位にすることができます。この科目は「応用英語 1」として代替できます。

◆2年次以降

「ターゲット英語」

履修条件として TOEFL-ITP 500 点以上の水準を履修条件としているコースのみ、「応用英語 1」の代替として認めます。

ただし、3年次以降「応用英語 2a」（履修条件：TOEFL-ITP 520 点以上）、「応用英語 2b」（履修条件：TOEFL-ITP 550 点以上）は自由選択科目となるため、「応用英語 1」として代替できません。

【理工学部 応用英語科目の履修方法】

2年次に履修する応用英語科目の開設曜日・時間帯は、各教育プログラム（EP）で指定されています。

指定されたクラスを履修登録してください。なお、2年次の春学期に履修登録した学生は、その合否にかかわらず、2年次の秋学期に履修登録できません。

3年次以降に応用英語を再履修する場合には、履修する応用英語科目の開設曜日・時間帯の制限はありません。

理工学部における 2年次応用英語科目の指定クラス開講曜日・時限

	火曜日・3時限	火曜日・4時限
春学期	化学・生命系学科	機械工学 EP 海洋空間のシステムデザイン EP 数理科学 EP
秋学期	材料工学 EP 電子情報システム EP	物理工学 EP 情報工学 EP
	春学期に受講資格がなく、秋学期までに受講資格を獲得した以下の学生 化学・生命系学科	春学期に受講資格がなく、秋学期までに受講資格を獲得した以下の学生 機械工学 EP 海洋空間のシステムデザイン EP 数理科学 EP

- ・ TOEFL-ITP450 点以上の学生

「応用英語 1」（2 単位）を春学期、または、秋学期に受講できます。

2年次には 2 単位を超えて履修できません。

- ・ 英語科目を 8 単位より多く（応用英語を 2 単位より多く）履修する場合

TOEFL-ITP520 点以上であれば、応用英語 2a を 3 年次以降で履修できます。このうち、TOEFL-ITP550 点以上であれば、応用英語 2b の履修が 3 年次以降で可能になります。

【注 1】 TOEFL-ITP430 点未満の学生

実践英語 LR の単位修得ができていないので、応用英語科目を受講できません。まず、実践英語 LR の単位修得が必要です。

【注 2】 TOEFL-ITP450 点未満の学生

TOEFL-ITP450 点未満の学生は、応用英語科目を受講することはできません。このうち、TOEFL-ITP430 点以上 450 点未満の学生は、独学により TOEFL-ITP450 点以上のスコアを獲得する事で、「応用英語 1」を受講することが可能になります。（春学期にスコア条件を満足できれば、秋学期に応用英語科目の受講が可能になります。）

⑤都市科学部

【都市社会共生学科】

英語科目：6 単位以上

履修年次	必修 6 単位	
1 年次	実践英語 LR	2 単位
	実践英語プレゼンテーション	2 単位
2 年次	応用英語 1	2 単位

履修年次	自由選択科目	
1 年次	実践英語ライティング 2 単位	
2 年次	ターゲット英語 2 単位	
3 年次	応用英語 2a, 2b 各 2 単位	

都市社会共生学科の履修基準では、英語科目 6 単位以上の履修が必修です。

さらに外国語科目の卒業単位を満たすために初修外国語 4 単位以上を含め外国語科目を 12 単位以上履修する必要があります。

外国語科目の自由選択単位数 (2 単位) は英語科目と初修外国語科目のいずれかから履修してください。

※英語の自由選択科目は実践英語ライティング推奨

応用英語 1 を履修するためには、1 年次のプレースメントテストまたは英語統一テストにて TOEFL-ITP 450 点以上の点数を取得する必要があります。

【建築学科・都市基盤学科・環境リスク共生学科】

英語科目：8 単位以上

履修年次	必修 8 単位	
1 年次	実践英語 LR	2 単位
	実践英語プレゼンテーション	2 単位
	実践英語ライティング	2 単位
2 年次	応用英語 1	2 単位

履修年次	自由選択科目	
2 年次	ターゲット英語 2 単位	
3 年次	応用英語 2a, 2b 各 2 単位	

建築学科・都市基盤学科・環境リスク共生学科の履修基準では、英語科目 8 単位以上の履修が必修です。

さらに建築学科の学生は外国語科目の卒業単位を満たすために初修外国語科目を 4 単位以上履修する必要があります。

応用英語 1 を履修するためには、1 年次のプレースメントテストまたは英語統一テストにて TOEFL-ITP 450 点以上の点数を取得する必要があります。

【留意事項】都市科学部外国語科目の履修方法について

都市科学部の外国語科目は、P.15 の履修基準表に基づき、以下の表のとおり、英語科目及び初修外国語科目を履修する必要があります。

	英語科目 必修単位数	初修外国語 必修単位数	選択単位数の履修方法 (いずれかを選択)	外国語科目 合計単位数
都市社会共生学科	6 単位	4 単位	英語科目または初修外国語 科目 2 単位 ※初修外国語の場合は P.33【都 市科学部の履修方法】参照	12 単位
建築学科	8 単位	4 単位		12 単位
都市基盤学科	8 単位			8 単位
環境リスク共生学科	8 単位			8 単位

(8) ターゲット英語

「ターゲット英語」は、通常授業期間外の第3ターム（夏季休業期間）など開講される、複数の英語コースをまとめた科目群の名称です。開講されるコースは年度によって異なりますが、TOEFL-ITP 500 点以上を条件とする「英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習」や「TOEFL-iBT スピーキング対策演習」などから、TOEFL-ITP 450 点以上を条件とし英語力の底上げを目指す学生向けのコースまで、幅広い英語力の学生が受講できるコースが用意されています。なお、どの科目の単位として認定されるかは学部によって異なります。履修を希望する場合は各学部の履修方法と単位認定について必ず確認してください。

(9) 検定英語科目

「検定英語科目」は、TOEFLiBT、TOEIC、IELTS などの外部検定試験で一定以上のスコアを取得した場合に単位を認定する科目です。検定英語科目の単位は、外国語科目の卒業に必要な単位には算入されませんが、全学教育科目の卒業に必要な単位数の合計には算入されます。対象となるスコアは、本学入学後に受験及び取得し取得後2年以内のものに限られます。なお、複数の外部検定試験のスコアを持っていても、単位認定は1科目につき1回のみです。検定英語科目は、春学期・秋学期の履修登録単位数の上限に含まれません。単位認定を希望する場合は所定の期日までに LMS で申請書及びスコア証明書類を提出してください。（学生自身で履修登録をする必要はありません。学期末に履修登録と成績登録の処理を一括で行います。）

経済学部所属の学生は、学部独自の制度がありますので、この検定英語科目の制度は利用できません。学部独自の制度については各学部の履修案内を確認してください。

授業科目名	単位	成績評価	外部検定試験のスコア基準
検定英語 A	1	合格	TOEFL-ITP 550 点以上（応用英語 2b レベル）
検定英語 B	1		TOEFL-ITP 600 点以上（大学院留学レベル）

※ TOEFL-ITP 以外の外部検定試験スコアはスコア換算表 (P.25 参照) により取り扱います。
 なお、TOEFL-ITP 600 点以上取得した場合は、検定英語 A 及び検定英語 B の 2 単位認定となります。

5. 初修外国語科目の履修について

全学教育／教養教育の目標である「国際感覚を養い、異文化への理解を深め、十分なコミュニケーション力を高める」ことを実現し、世界の多元性や多様性の認識を深め、共生への理解を育むため、異文化理解教育として初修外国語科目を開設しています。初修外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語の 5 言語です。

初修外国語が必修となるのは以下の学科・EP (学士プログラム) です。他の学生は自由選択科目として履修が可能で、全学教育科目の卒業に必要な単位として算入されます。

- ・理工学部数物・電子情報系学科数理科学 EP
- ・都市科学部都市社会共生学科
- ・都市科学部建築学科

(1) 初修外国語科目の編成 (セメスター科目)

初修外国語 1・2 は、基礎的な知識を修得させる初級レベルの授業内容です。

初修外国語 3 は、専門領域の研究や卒業後のキャリアのため、より高度の知識・教養を修得させる中級レベルの授業内容です。

(2) 初修外国語科目の選択方法

授業科目名 (セメスター科目)	単位	ナンバリング	教育	経済	経営	理工		都市			履修年次 (科目区分)
						数理科学	他の EP	都市社会共生	建築	他の学科	
ドイツ語 1・2	2	2000	自由選択	自由選択	自由選択	1 言語 4 単位以上選択必修	自由選択	1 言語 4 単位以上選択必修※	1 言語 4 単位以上選択必修	自由選択	1 年次
フランス語 1・2	2										
スペイン語 1・2	2										
ロシア語 1・2	2										
中国語 1・2	2										
初修外国語 3 (各言語)	2	3000	自由選択 原則として、同一言語の「〇〇語 1」+「〇〇語 2」を 2 セット (計 8 単位) 以上修得しなければ履修できません。							2~3 年次から	

※都市科学部社会共生学科は、英語科目と初修外国語科目をあわせて外国語科目 12 単位以上選択必修

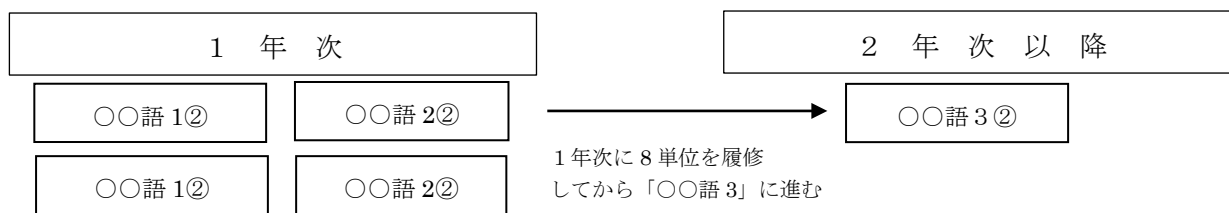
【初修外国語科目を履修する場合のフロー】 ※〇数字は単位数を示す。

○一般的な科目履修の場合 (1 言語 2 科目 4 単位の履修ケース)



※〇〇語 1, 〇〇語 2 はセット履修のため、両方とも履修しなければ卒業に必要な単位に算入されません

○ 初修外国語 3 の履修や留学希望等で、1 年次に 8 単位履修する場合



- ※教育学部の所属学生で初修外国語科目を履修希望する場合は、教育学部の履修手引きを確認してください。
- ※○○語 1（春semester開講科目）を履修して単位修得できない場合は、○○語 2（秋semester開講科目）を履修することはできません。
- ※一定の条件を満たす場合は「スピード履修」「スキップ履修」制度があります。

(3) 初修外国語 1・2 の履修方法

言語ごとに「○○語 1」、「○○語 2」の 2 科目を開講しています。火曜日及び金曜日の 1 限・2 限から所属学部の学科・EP 等（学士プログラム）ごとに次の表で指定しています。

開講されている各言語から 1 言語を選択し、春学期に「○○語 1」、秋学期に「○○語 2」を履修してください。「1」と「2」を合わせて 1 年間で完結するような授業内容ですので、秋学期は春学期と、同一曜日・時限・教員のクラスに事前決定しています。ただし、「○○語 1」の単位を修得できなかった場合、秋学期の「○○語 2」を履修することはできません。やむを得ず事前に決定しているクラスを変更したい場合は、別途掲示される外国語 WEB 履修登録手引きを確認してください。また、再履修時は、同一言語であれば不可だった際と異なる担当教員のクラスを履修しても差支えありません。

なお、同一言語で「○○語 1」＋「○○語 2」の【1 セット 4 単位】を修得しなければ、卒業に必要な外国語の単位に算入されませんので、注意してください。「○○語 1」＋「○○語 2」のセットで修得していない場合（例えば、○○語 2 の単位修得ができなかった場合や○○語 1 の単位を春学期に修得したものの、秋学期に○○語 2 を履修しない場合など）、修得済の 2 単位分は、卒業に必要な初修外国語の単位数に算入されません。ただし、全学教育科目の卒業に必要な総単位数には算入されます。

初修外国語が必修の場合、受講クラスは入学前に行う希望言語の履修希望調査に基づき決定します。履修希望調査へ回答しなかった場合や自由科目として履修する場合は、履修登録期間に行われる外国語 WEB 履修抽選へ申請してください。

なお、語学研修や海外留学を検討している場合、または 2 年次以降に○○語 3 の履修を希望している場合は、1 年次に「○○語 1」と「○○語 2」を週 2 クラス（通年で 8 単位）履修できます。必修科目で受講を指定されたクラスが 1 クラスのみの場合は、履修登録期間に行われる外国語 WEB 履修抽選で 2 クラス目を申請してください。同一学期で「○○語 1」（または「○○語 2」）を 2 クラス履修する場合、同一教員のクラスを履修することはできません。

「○○語 2」のクラスは春学期に履修した「○○語 1」と同一教員の同一曜日・時限のクラスを履修してください。なお、「○○語 1」を履修した年度とは別の年度に「○○語 2」を履修する場合はこの限りではありません。

1 年次履修指定学部（理工学部・都市科学部）

	火曜日	金曜日
1 限	都市社会共生学科	建築学科
2 限	数物・電子情報系学科（数理科学 EP）	都市社会共生学科

※外国語 WEB 履修抽選に申請する場合、指定曜日・時限の枠は所属学生の優先度が高くなります。

【都市科学部の履修方法】

都市科学部では、以下のとおり学科によって履修方法が異なります。

○都市社会共生学科の履修方法

1 言語 4 単位の履修を原則とし、1 年次に A 語 1 と A 語 2 の 2 科目 4 単位を履修してください。なお、選択科目として 2 言語 8 単位の履修も可能です。

例 4 単位を履修する場合の科目の組み合わせ

1 言語 4 単位：A 語 1 (X 教員) + A 語 2 (X 教員)

例 8 単位を履修する場合の科目の組み合わせ

1 言語 8 単位：A 語 1 (X 教員) + A 語 2 (X 教員)
A 語 1 (Z 教員) + A 語 2 (Z 教員)
2 言語 8 単位：A 語 1 (X 教員) + A 語 2 (X 教員)
B 語 1 (Y 教員) + B 語 2 (Y 教員)

各言語の履修は 2 言語までとします。(3 言語目を履修した場合は、外国語科目の卒業単位としては算入されませんが、全学教育科目の卒業単位数の合計には算入されます。)

なお、〇〇語 3 を履修するためには、次の (4) のとおり、あらかじめ同じ言語の〇〇語 1 と〇〇語 2 を 4 科目 8 単位の修得が必要です。

○建築学科の履修方法

1 言語 4 単位の履修を必修とし、1 年次に A 語 1 と A 語 2 の 2 科目 4 単位を履修してください。言語と科目名の組み合わせ例は、上記の都市社会共生学科の説明を参照してください。

○都市基盤学科・環境リスク共生学科の履修方法

初修外国語科目は自由選択です。履修した場合には全学教育科目として卒業に必要な単位数に算入されません。

【留意事項】都市科学部都市社会共生学科外国語科目の履修方法について

都市科学部都市社会共生学科の外国語科目は、P.15 の履修基準表に基づき、英語科目及び初修外国語科目を合わせて 12 単位以上を履修する必要があります。詳細は P.16 を参照してください。

【自由選択科目としての履修方法】

初修外国語科目が「必修科目」に指定されていない教育プログラムでは、「自由選択科目」として初修外国語科目を履修することができ、全学教育科目の「かわり」として卒業要件に算入できます。

履修を希望する学生は、学務情報システムトップページ掲載の「外国語 WEB 履修登録手引き」を確認し、手引きの指示に従い、履修登録の手続きを行ってください。なお、抽選になった場合は、必修の教育プログラムの学生が優先となります。

(4) 初修外国語 3

初修外国語 3 を履修するためには、あらかじめ同一言語の「〇〇語 1」と「〇〇語 2」を 4 科目 8 単位（「〇〇語 1」＋「〇〇語 2」のセットを 2 つ）修得する必要があります。

授業内容や習熟度等がクラスによって異なりますので、WEB シラバスをよく確認し、自分にとって授業内容とレベルがあったクラスを履修するようにしてください。

(5) 初修外国語のスピード履修

1セット4単位の成績が優秀な学生は、条件を満たせば、「〇〇語1」と「〇〇語2」を8単位修得していなくても、その言語の「〇〇語3」を履修できます。

希望する学生は、所定の期日までに学務・国際戦略部教育企画課全学教育係の授業支援システム(LMS)もしくは窓口に申請してください。

(6) 初修外国語のスキップ履修

本学に入学する前に初修外国語を学習した経験があるなど次の履修条件の一つを満たしている場合、初級レベル、「〇〇語1」と「〇〇語2」を履修せずに、「〇〇語3」から「スキップ履修」することができます。ただし、スキップ履修した場合であっても、卒業に必要な初修外国語の単位数は変わりません。必要な数だけ「〇〇語3」を履修したり、次の(7)検定初修外国語科目を利用したりして、卒業に必要な単位数を満たしてください。

希望する学生は、所定の期日までに学務・国際戦略部教育企画課全学教育係の授業支援システム(LMS)もしくは窓口に申請してください。

※スピード履修とスキップ履修に関する申請要件等については以下を参照してください。

種類	最低限必要な単位数	申請条件	レベルチェック テスト実施要否
スピード履修	1セット4単位以上 (〇〇語1:2単位以上 〇〇語2:2単位以上)	1セット4単位の成績内訳が「秀」又は「優」 例: 〇〇語1「秀」+ 〇〇語2「秀」 〇〇語1「秀」+ 〇〇語2「優」 〇〇語1「優」+ 〇〇語2「秀」 〇〇語1「優」+ 〇〇語2「優」	言語担当教員の判断により、実施する 場合がある
スキップ履修	特になし	以下、①~③のいずれかに該当する学生の場合 ① 当該外国語の初級過程を高校その他の教育機関などで学習したことがあり、証明する文書(成績証明書、履修証明書、検定合格証明書※等)が提出できる学生 ② 大学入試共通テストで当該外国語を受験した学生 ③ 本学の当該外国語教員が実施する初級学力試験(レベルチェックテスト)に合格した学生	①、②については言語担当教員の判断により、実施する 場合がある ③はレベルチェック テスト必須

※本学入学後に取得した外部検定試験でもスキップ履修の申請が可能です。

(7) 検定初修外国語科目

外部検定試験において一定レベルのスコアを獲得した場合に単位認定する検定初修外国語科目があります。検定初修外国語科目の単位は、科目区分「かかわり」の全学教育科目の単位に算入されます。**初修外国語が必修の教育プログラムでも卒業に必要な初修外国語の単位としては算入されません**ので注意してください。対象となる資格は、本学入学後に受験及び取得したもので、かつ取得後2年以内のものに限ります。

また、検定初修外国語科目は、春学期・秋学期の履修登録単位数の上限に含まれません。単位認定を希望する場合は所定の期日までにLMSにて申請書とスコア証明書類を提出してください。(学生自身で履修登録をする必要はありません。学期末に履修登録と成績登録の処理を一括で行います。)

なお、複数の外部検定試験のスコアを獲得しても、1科目につき単位認定できるのは1回のみとなります。

授業科目名	単位	成績評価	外部検定試験のスコア基準
検定ドイツ語	2	合格	ドイツ語技能検定試験（ドイツ語学文学振興会）4級合格、またはドイツ語検定試験（ゲーテ・インスティトゥート）A2合格
検定フランス語	2		実用フランス語技能検定試験（フランス語教育振興協会）4級合格、または DELF（フランス国民教育省フランス語学習資格）A2合格
検定スペイン語	2		スペイン語技能検定（日本スペイン協会）5級合格、またはスペイン語認定証（セルバンテス文化センター東京）DELE A2合格
検定ロシア語	2		ロシア語能力検定試験（ロシア語能力検定委員会／東京ロシア語学院）4級合格
検定中国語	2		中国語検定試験（日本中国語検定協会）準4級合格、または漢語水平考試（通称 HSK）（中国教育部国家漢弁）3級合格
検定朝鮮語	2		ハングル能力検定試験（ハングル能力検定協会）5級合格、または韓国語能力試験（韓国教育財団）1級合格

6. 数理・データサイエンス・AI 科目について

皆さんが今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる素養を主体的に身に付けるための多様な講義を全学教育科目においても開講しています。

(1) 数理・データサイエンス・AI 入門

本学では、数理・データサイエンス・AI は『全ての学生が、今後の社会で活躍するにあたって学び身に付けるべき新たな時代の教養教育』と位置づけ、2026年度入学生から全学教育科目「数理・データサイエンス・AI 入門」を、学部を問わず全学部生に対して必修科目として開講しています。各開講学期及びタームでの開講形式は次の通りです。

春学期	対面 3クラス（内 1クラスは英語開講）、オンデマンド 1クラス
第3ターム	オンデマンド 1クラス
秋学期	対面 1クラス、オンデマンド 1クラス
第6ターム	オンデマンド 1クラス

この科目は学部や学科等での指定クラス分けは行いませんので、いずれの学期・タームのクラスを受講しても構いません（所属学部から指示がある場合には、それに従ってください。）。また、不可となった場合、同一年度に再履修・再受講をすることができます。その際は、次ページの表に従って行ってください。対面とオンラインの区別はありません。

数理・データサイエンス・AI 入門を履修登録して単位を修得した学生は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルを修了したことが認められ、成績表にその旨が記載されます。リテラシーレベルの修了の認定に際して、特に登録する必要はありません。

不可となったクラス	次に受講を希望するクラス	履修・受講の方法
春学期開講 第3ターム	第3ターム	第3タームの科目についてあらためて履修登録はせず、授業支援システムで仮登録して受講
	秋学期以降	受講する学期にあらためて履修登録して受講
秋春学期開講 第6ターム	第6ターム	第6タームの科目についてあらためて履修登録はせず、授業支援システムで仮登録して受講
	次年度春学期以降	受講する学期にあらためて履修登録して受講

(2) データサイエンス実践基礎、AI 実践基礎

全学教育科目でオンデマンドにて開講するデータサイエンス実践基礎と AI 実践基礎は、教育学部、経済学部、経営学部、都市科学部の学生が受講できます。理工学部生は、学部の指示に従って受講してください。データサイエンス実践基礎を履修した後に、AI 実践基礎を履修することを推奨します。

数理・データサイエンス・AI 入門と、データサイエンス実践基礎、及び、AI 実践基礎を履修登録して単位を修得した学生は、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の応用基礎レベルを修了したことが認められ、成績表にその旨が記載されます。応用基礎レベル修了の認定に際して、特に登録する必要はありません。理工学部生の修了要件については、理工学部の履修案内を参照してください。

7. YNU リテラシー科目について

YNU リテラシー科目は、横浜国立大学（YNU）での大学生活をスムーズに始めるために設計された、全学共通の1年次必修科目です。

この授業では、単に知識を学ぶだけでなく、「なぜ大学で学ぶのか」「学びが自分の人生にどうつながるのか」を考えながら、主体的に学ぶ姿勢を身に付けることを目的としています。大学生活を、将来のキャリアや社会とのつながりを見据えた成長の出発点とするための基盤を築きます。

授業は次の3つの領域で構成されています：

・アカデミック・リテラシー

大学で学ぶ意味を理解し、ライフデザインの視点を育てます。基本的な文章作成やアカデミックライティングの基礎等も学びます。

・シビック・リテラシー

大学生としてのモラルや社会的責任、契約や消費行動の基礎知識、心身の健康管理、ダイバーシティ（多様性）について学びます。

・情報リテラシー

情報セキュリティや SNS の適切な使い方を学び、デジタル社会に対応する力を養います。

(1) 履修について（履修登録・単位・成績）

履修登録：

本授業は1年次必修科目です。1年次春学期の履修登録期間に、必ず履修登録してください。

単位数・成績評価：

本授業は合否判定科目（合格で1単位）です。

成績評価は、各回の動画視聴後に実施される確認テストや提出されたレポートにより行います。確認テストは、各回の学習内容の理解度を測るため、選択式問題や記述式問題で構成されています。

以下の条件をすべて満たした場合に「合格」となります：

- ①確認テストがある授業回のテストにおいて、各回80%以上のスコアを獲得していること
- ②レポート提出が求められている授業回において、すべてのレポートを提出していること
- ③各回の動画を適切に視聴していること（視聴履歴により確認）

不合格の場合の取扱い：

第2ターム終了時に合否判定が行われ、不合格となった場合は、第3ターム以降に授業支援システム上で再受講が必要となり、その際は全8回を改めて受講します。第3タームで合格となった場合、春学期の成績は訂正されます。第3タームの所定の期日までに単位を修得できなかった場合は、秋学期に再履修登録を行なってください。

なお、本授業は入学直後の早い段階で理解し、身につけていただくことを目的に構成されています。そのため、必ず1年次のうちに単位を取得してください。

(2) 受講について（授業の受け方）

授業形態：

本授業は、完全オンデマンド型の遠隔授業です。履修した学期・タームにおいて、授業支援システムにアクセスし、自分のペースで学習します。

受講時期：

原則として1年次の第1タームで受講してください。

受講方法：

授業支援システム上に「YNUリテラシー」講義が用意されていますので、そこから動画教材等にアクセスしてください。

授業は全8回で構成されており、回ごとに1週間の受講期間を設け、順番に動画教材等が公開されます。各回の授業では、動画を視聴したうえで確認テストやレポートに取り組み、学習内容の理解度を確認します。

受講上の注意：

受講が遅れたり、確認テストの受験またはレポートの提出を何度も忘れてしまった場合は、授業担当者から注意の連絡が行われることがあります。それでも対応がない場合や、定められた期限までにすべての回を修了できなかった場合は、「不合格」となりますので注意してください。

8. 健康スポーツ科目の履修について

(1) 健康スポーツ科目の編成

学 部	授業科目名	単位	学期	履修年次	必修・選択別
教育学部	健康スポーツ演習 A	2	春または秋	1	必修科目
全学共通	健康スポーツ演習 B	2	春または秋	1～4	選択科目

※教育職員免許状取得希望学生は健康スポーツ演習 A または健康スポーツ演習 B (2 単位) が必修となります。

※健康スポーツ演習 B について、教育学部の履修年次は 2～4 年次とします。

(2) 健康スポーツ演習の履修方法

①健康スポーツ演習 A

健康スポーツ演習 A は、教育学部 1 年次学生の必修科目とし、教育職員免許状取得における体育全般についての基礎的な知見の修得を目標とします。

演習科目は複数授業開設されており、その中から 1 つ授業を選択履修します。詳細については 1 年次春学期の最初に行われる健康スポーツ演習 A のオリエンテーションの際に説明します。授業オリエンテーションを欠席すると履修できないことがあるので注意してください。

なお、疾病または身体障がいを理由として履修が困難な学生は、教育学部健康スポーツ教育担当窓口(教育学部第 1 研究棟 S3-2/110 室)に直接届け出て指示を受けてください。

②健康スポーツ演習 B

健康スポーツ演習 B は、すべての学部生の選択科目(全学共通)として、健全な心身の発育発達の保障と運動習慣の体得を目標とします。

(3) 健康スポーツ演習 B の履修登録手続

健康スポーツ演習 B は、適正な授業運営と教育効果の向上から履修学生数の制限を行います。履修登録を希望する学生は、各学期開講日から 1 週間内に開催されるオリエンテーションを受け、第一次登録をします。履修希望学生数が履修定員を超えた場合は抽選を行います。抽選に受かった学生は、やむをえない事情がない限り、必ず履修登録をすることとします。

抽選に外れた場合、もしくは新たな授業を希望する場合、開講 2 週目に各授業の開講場所において、第二次登録手続をします。

なお、集中授業のオリエンテーションも開講 1 週目に行います。日時と場所は次のとおりです。

第一次登録	授業開講 1 週目の開講時限 < 体育館 >
第二次登録	授業開講 2 週目の開講時限 < 各授業の開講場所 >
集中授業登録	授業開講 1 週目の水曜日 12:15～12:45 < 体育館 >

※第一次登録後の空き状況は、第二次登録前に授業支援システム（LMS）等に掲示します。

（4）健康スポーツ演習の履修上の注意

- ① 健康スポーツ演習は、科目の性格上、出席を特に重視しており、規定の出席回数に満たないときは、単位は認定されません。
- ② 再履修する場合は、同一名称の科目を履修すること。ただし、健康スポーツ演習 B においては、種目は問いません。

9. 世界事情及び国際交流科目群の履修について

（1）世界事情

21 世紀グローバル新時代では、世界的な経済発展の軸がシフトしたアジア等新興国の多様な社会制度、文化、宗教や商慣習等の理解が重要であり、これら新興国等の国や地域別の事情を学ぶ新しいジャンルの授業科目です。また、世界事情の理解を深めるための授業科目も含まれます。これとは別に留学生のための授業科目として「日本事情」があります。開講科目については、年によって変更があるため、時間割などを確認してください。

（2）国際交流

国際共創に主眼を置いた英語あるいは日本語で開講される全学教育科目です。外国の協定校からの短期交換留学生等を含めたすべての学部生が履修できます。

英語を通じて知識やスキルを学ぶ科目や留学生と協働する授業で異文化コミュニケーションを実践する科目などによって構成されています。

それぞれの科目に必要なとされる語学要件等、受講条件を確認したい場合は、各授業担当教員に問い合わせてください。

【グローバルスタディズ副専攻プログラム】

グローバルスタディズ副専攻プログラムは、国際事情の理解を土台とし、インタラクティブな学修活動や海外での実践的な学びを通して、優れた異文化間協働能力を備えることを目指した副専攻プログラムです。

所定の科目を履修し、ショートビジットあるいは海外インターンシップ等の新興国等での海外経験を経ることにより、修了証書が授与されます。

グローバルスタディズ副専攻プログラムについては、学生センター（学務・国際戦略部グローバル推進課国際教育係）に遠慮なく相談してください。

10. 国際的視点から考える協働ラボ（Topics in International Perspective: TIPs）【春学期開講】について

本科目は、学部一年生が大学院留学生ティーチング・アシスタント（TA）と積極的に協働しながら、グローバルな課題について多角的な視点から学修を深めることを目的とします。人口に関連する問題や環境問題といった日本及び世界が直面する課題を題材として取り上げ、異なる価値観や文化的背景をもつ他者との協働を通じて、問題の本質を多面的に捉える力と、相互理解の姿勢を養うことを目指します。

授業は日本語と英語の併用で行われます。一年生の履修生のみで学修を行う週と、留学生 TA とともに学修を行う週を組み合わせられて構成されており、一年生の履修生のみで学修を行う週ではグループで調査・資料作成を

行います。扱うテーマは分野横断的で、多角的な視点を引き出せるものであるため、各グループが異なる視点から課題に取り組むことができるように設計されています。留学生 TA と共修する週では、調査結果の英語での発表及び英語によるディスカッションを通して調査結果を共有し、さらに学修内容を深化させます。

学修活動は、一つのテーマに対し二段階構成で実施します。Phase 1 では「日本」を対象とし、日本の現状や課題を調査・整理し、発表とディスカッションを行います。Phase 2 では「他の国や地域」に焦点を移し、国際的な視点からの比較・考察を行います。各フェーズの最終週には留学生 TA との十分なディスカッションの時間を設け、自らの調査結果を基に意見を述べ、他者の見解に耳を傾ける機会を確保します。自らの調査と準備を基盤として発言できる構成のため、英語での即興的な発言に不安がある学生にとっても、安心して自らの考えを表現できます。したがって、本講座は、国際的な課題に対する理解を深めるとともに、異文化協働の実践を通じて発信力と多様な価値観の理解を高めることも狙いとなります。

1.1. イノベーション教育科目群の履修について

入門的基幹知（領域）、技術革新思考（領域）、社会実装戦略（領域）、キャリア形成実践知（領域）の4つの領域を設定しています。

なお、「キャリア形成実践知（領域）」1000番台の授業科目は、ライフキャリアを考える授業内容であり、1年次での履修を推奨します。

【地域交流人材育成副専攻プログラム】

地域交流人材育成副専攻プログラムは、地域実践教育研究センターがすべての学部を横断して共同運営しており、所定単位を修得すると成績証明書に副専攻名が記載される正規の副専攻プログラムです。地域交流人材育成副専攻プログラム「履修案内」を配付しています。

地域実践教育研究センター（経済学部1号館 N4-1/406室）に遠慮なく相談してください。

【MAB/SDGs 副専攻プログラム】

MAB/SDGs 副専攻プログラムは、知の交流と共有を通じて、地域に密着しつつ、国際的な連携・協働を促進することにより、UNESCOの「人間と生物圏（MAB）計画」を活用して、国内外で持続可能な開発目標（SDGs）に即して活躍できる優秀な人材を育成するための教育プログラムです。

同プログラムが定めた所定単位を修得すると「副専攻修了証書」が発行されるとともに、成績証明書に副専攻名と修了コース名称が記載される正規の副専攻プログラムです。

同プログラムについては、学生センター（学務・国際戦略部グローバル推進課国際教育係）に遠慮なく相談してください。

【YNU リーディング・レクチャ・シリーズ (YNU Leading Lecture Series)】

YNU リーディング・レクチャ・シリーズ (YNU Leading Lecture Series) とは、本学の各分野の若手中堅教員の発案から、学長が企画した授業科目です。これらの科目は、公募により選ばれた本学の専任教員が、大学の特色やビジョンに係わる「文理融合」「グローバル・ローカル」「アジア新時代」や、「共生」「ダイバーシティ」「エネルギー・環境」「サステナビリティ」「倫理」など、社会の諸課題をテーマとして、新しい視点、新しい形態で行う全学教育科目です。

今年度の開講科目については、P59を確認してください。YNU リーディング・レクチャ・シリーズは、独立した科目群ではなく、「こと・もの」といった既存の区分の科目として開講されますので、修得した単位数は、それぞれの科目に対応した区分で集計されます。

1 2. 放送大学科目の履修について

全学教育科目では、単位互換制度による「放送大学科目（特別聴講学生）」を導入しています。

本制度の導入によって、放送大学科目の単位認定試験を本学キャンパス内講義室で実施することが可能です。また、従来のテレビ・ラジオ放送による視聴のほか、インターネットの利用により放送授業全15回の講義がいつでも視聴が可能です。さらには、一定の条件（通信指導問題の提出、単位認定試験期間には帰国）を満たせば、海外においても履修することが可能です。

放送大学科目は、関連する専攻分野を深める、あるいは本学が開講していない専攻分野を学ぶことを希望する学生に、広い関心と興味に応じた履修の機会を提供しています。

(1) 放送大学科目の履修手続

放送大学科目の履修手続は、本学が開講する全学教育科目の履修登録期間とは異なり、1年次秋学期からの履修となります。疑問な点や不明なことがあれば、所属学部 of 学務担当係に遠慮なく相談してください。入学科は無料ですが、授業料は履修者の負担になります。1科目（2単位）につき、12,000円です。納付の時期については学生センター（学務・国際戦略部教育企画課全学教育係）に問い合わせてください。

【放送大学科目登録時期】	1年次秋学期の履修	2025年 7月頃
	2年次春学期の履修	2026年 1月頃

(2) 放送大学科目の履修科目とその扱い

放送大学科目の成績評語は「認定」で表し、GP（Grade Point）は与えません。

学部	放送大学科目単位互換制度における単位の扱い
教育学部	卒業に必要な単位には算入されません。
経済学部	卒業に必要な単位には算入されません。
経営学部	卒業に必要な単位には算入されません。
理工学部	<p><化学・生命系学科全 EP> 全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。</p> <p><物理工学 EP> 全学教育科目として8単位まで卒業に必要な単位に算入されます。</p> <p><電子情報システム EP> 全学教育科目として生命・自然、こと・もの、かかわり（初修外国語に限る）3科目6単位まで卒業に必要な単位に算入されます。</p> <p><情報工学 EP> 全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。</p> <p><上記以外の EP> 卒業に必要な単位には算入されません。</p>
都市科学部	<p><都市社会共生学科・都市基盤学科・環境リスク共生学科> 外国語科目を除き、全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。</p> <p><建築学科> 英語科目を除き、初修外国語科目または全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入されます。</p>

1.3. 留学生のための授業科目について

留学生が履修する授業科目として、日本語科目及び日本事情科目があります。授業の履修方法や必修単位数については所属学部の学務担当係に、授業の内容については日本語教育部（国際教育センターS1-3）にお問い合わせください。

(1) 日本語科目

日本語科目は、本学で学修するために必要な日本語力を育成する科目として、基本的な日本語力を育成する「実習科目」と、その実習科目を発展させて社会や研究生活に適した思考力・表現力を育成する「演習科目」があります。

すべての留学生は、入学時の日本語力のレベルにより「中級者」と「上級者」に判定されます。

「日本語上級」は2025年度までの入学者と2026年度以降の入学者では単位数及び時間割コードが異なります（2026年度入学者は2単位）ので、履修登録時は注意してください。

	授業科目名	単位	履修年次	履修上の注意
実習科目	日本語中級 A 日本語中級 C 日本語中級 D 日本語中級 E 日本語中級 F 日本語中級 I 日本語中級 J 日本語中級 K	2	1年次	中級者向けクラスであり、上級者は履修できません。中級者は1年次春学期に履修してください。 ※日本語中級 I は第 1 ターム、日本語中級 J は第 2 タームに開講します。
	日本語上級 A 日本語上級 C 日本語上級 F 日本語上級 H 日本語上級 I 日本語上級 J 日本語上級 K 日本語上級 L 日本語上級 M 日本語上級 O 日本語上級 P	2	1年次 ～4年次	中級者は1年次秋学期から履修できます。
演習科目	日本語演習 A 日本語演習 B	2	1年次 ～4年次	演習科目は1年次秋学期から履修できます。

① 中級者の履修方法

中級者に判定された留学生は、日本語の実習科目のうち、1年次春学期のみ「日本語中級」を履修することができます。日本語力を高め、本学の学修をスムーズに進めるため、できる限り多くの日本語中級クラスの履修を強く奨励します。1年次秋学期からは「日本語上級」を履修することができます。「日本語演習」を履修することもできますが、「日本語上級」を履修してからの演習科目の履修を推奨します。「日本語上級」「日本語演習」は2年次以降も履修できます。

② 上級者の履修方法

上級者に判定された留学生は、「日本語中級」は履修できません。1年次春学期から「日本語上級」を履修することができます。1年次秋学期以降においては「日本語上級」のほか、「日本語演習」も履修することができます。「日本語上級」「日本語演習」は2年次以降も履修できます。

③ 演習科目の履修方法

「日本語演習」は1年次秋学期以降から履修できます。ただし、「日本語上級」を履修してからの演習科目の履修を奨励します。

④ 日本語科目の評価方法

日本語科目の評価は、小テスト、プレゼンテーション、中間の課題、学期末の課題（試験またはレポート）などを評価基準としています。評価方法は、各授業科目のシラバスで確認してください。

⑤ 外国語科目との代替措置

日本語科目を履修した場合、理工学部（数理科学 EP のみ）は初修外国語科目に、都市科学部は英語科目、初修外国語科目（建築学科、都市社会共生学科のみ）に代替することができます。

(2) 日本事情科目

日本事情科目は、科目分野「世界事情」において開講します。

科目	学期	単位	履修年次
日本事情 日本の就職事情	秋	2	1年次～4年次

※「日本事情 日本の就職事情」は留学生のみが履修可能です。

1.4. 教育職員免許状について

(1) 教育職員免許状の取得

本学では、教育学部、理工学部、都市科学部（環境リスク共生学科）に教職課程を開設し、次の教育職員免許状が取得できます。

学部	学科・課程	教員免許状の種類	免許教科・特別支援教育領域
教育学部	学校教員養成課程	小学校教諭一種	
		中学校教諭一種 中学校教諭二種	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
		高等学校教諭一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、英語
		特別支援学校教諭一種 特別支援学校教諭二種	聴覚障害者（特別支援教育専門領域の学生のみ取得可能）、知的障害者、肢体不自由者、病弱者（一種のみ）
理工学部	機械・材料・海洋系学科	中学校教諭一種	数学、理科
		高等学校教諭一種	数学、理科
	化学・生命系学科	中学校教諭一種	理科
		高等学校教諭一種	理科
	数物・電子情報系学科	中学校教諭一種	数学、理科
		高等学校教諭一種	数学、理科、情報
都市科学部	環境リスク共生学科	中学校教諭一種	理科
		高等学校教諭一種	理科

(2) 教職課程の履修

教育職員免許状は、教職課程において教育職員免許法に定める科目を履修し、教育実習や介護等体験実習、教職実践演習（履修カルテの作成）など、学生の所属学部学科等の学科等（学士プログラム）が設定する授業科目履修と同時に、教職課程プログラムを4年間継続して体系的に履修する必要があります。

教育職員免許状の取得を希望する学生は、所属学部で開催する教職課程に関するオリエンテーションに必ず出席してください。

(3) 教育職員免許状取得に必要な全学教育科目

教育職員免許状の取得を希望する学生は、所属学部を問わず、次の全学教育科目の単位を修得する必要があります。

- | |
|------------------------------|
| ① 日本国憲法（2単位） |
| ② 健康スポーツ演習Aまたは健康スポーツ演習B（2単位） |
| ③ 実践英語プレゼンテーション（2単位） |

その他不明な点は、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

15. 学部向け大学院全学教育科目について

大学院の授業科目は、原則として科目を開設する研究科・学府の学生しか履修できませんが、すべての研究科及び学府の学生が履修できる科目のことを大学院全学教育科目といいます。この大学院全学教育科目のうち、学部生に開放している科目を「学部向け大学院全学教育科目」といい、学部4年次に履修することが可能です。なお、修得した単位の取扱いとしては、都市科学部以外は卒業に必要な単位には算入されませんので、注意してください。

開講科目については教育推進機構のWEBサイトで公開されます。詳細は所属学部の学務係に相談してください。

V. 全学教育科目の単位の認定

1. 定期試験について

(1) 定期試験

授業科目の単位は、原則として試験を行った上でその成績により授与されます。

全学教育科目の定期試験は、原則としてターム科目は第8週目に、セメスター科目は第16週目に、筆記試験により行います。なお、セメスター科目の第8週目は通常授業となります。

ただし、授業担当教員によっては、筆記試験とレポートを併用する、あるいは定期試験に代えてレポート等の提出や実技・演習等により行うことがあります。この場合は、指定された提出先へ所定の期間内に提出する必要があります。また、中間試験等を実施することもありますので、所属学部の授業支援システム（LMS）等やWEBシラバス等を確認してください。

定期試験期間

春学期	第1ターム 2026年 6月 3日（水）～ 6月 9日（火） 春セメスター／第2ターム 2026年 7月29日（水）～ 8月 5日（水）
秋学期	第4ターム 2026年11月26日（木）～12月 2日（水） 秋セメスター／第5ターム 2027年 2月 2日（火）～ 2月 9日（火）

※第3ターム（夏季休業期間）、第6ターム（春季休業期間）開講科目は教員からの指示による。

(2) 定期試験の実施方法・時間割発表

全学教育科目における定期試験実施に係る連絡事項は、定期試験開始の2週間前を目途に「授業支援システム（LMS）>【連絡専用】教育企画課全学教育係」もしくは「各科目のLMS」、「所属学部の掲示板やLMS>【連絡専用】科目」で伝えます。試験時間割（試験教室）は、通常の授業時間割（講義教室）と異なることがありますので、授業支援システム（LMS）等を必ず確認してください。

また、定期試験以外の試験については、授業中において発表し、特に掲示をしないことがありますので注意してください。

2. 定期試験の受験上の注意について

(1) 不正行為

定期試験において、不正行為（身代わり受験やカンニング等）を行い、学則による懲戒処分を受けた学生は、当該学期に履修した授業科目（当該学期に履修登録したセメスター科目及びターム科目）の単位がすべて無効となります。

(2) 学生証の提示

定期試験を受験する際は、必ず学生証を机上に提示してください。学生証を提示しない学生は受験することはできません。

忘れる、紛失等した場合は、「仮受験票」等を発行しますので、所属学部の学務担当係に申し出てください。

(3) 試験室の入室等について

指定された試験室には、試験開始時刻前に入室し、原則として他の学生と隣り合わないよう、横に一人分のスペースを空けて、着席してください。また、科目担当教員により座席指定されている場合には、その指示に従って着席してください。

(4) 定期試験時間中の所持品等について

筆記用具及びあらかじめ許可されたもの以外は、机の上に置くことはできません。

定期試験に必要なとしない所持品（筆箱や下敷きを含む。）等は、かばん等の中に入れ、机の下に置いてください。

特に携帯電話等電子端末は、電源を必ずオフにして、その他の所持品等と同様に、かばん等の中に入れてください。携帯電話等を時計代わりに使用することはできません。

(5) 遅刻者及び退出者の取扱い

遅刻した学生は、特別な事情がある場合に限り、試験開始から 20 分までに入室した場合は受験が認められますが、20 分以上遅刻した学生は受験することができません。

また、試験開始から 30 分以上経過するまでは、試験室から途中退出することは認めていません。

(6) その他の注意事項

試験の解答用紙には、学籍番号及び氏名その他必要な事項を明記してください。これらを記入していない答案は、無効となることがありますので注意してください。

定期試験時間中に、試験監督者の指示及び注意事項を遵守しない学生は、退席を命じることがあります。

これらのほか、定期試験の実施要領や受験上の注意事項について、所属学部の履修案内や授業支援システム（LMS）等を参照してください。

3. 追試験について

(1) 追試験の事由

追試験とは、定期試験を次の（ア）～（エ）に該当する事由により受験できなかった場合は、当該授業科目について追試験の実施を申請することができます。

なお、本学では、再試験（何らかの事情により一度行った定期試験を最初からやり直すこと）は原則として行いません。

（ア）本人の疾病または負傷（医師の診断書を必要とする）

（イ）三親等以内の親族または同居の親族の死亡（事実を確認できる書類を必要とする）

（ウ）交通機関の著しい遅延・運休（事実を証明する書類を必要とする）

（エ）裁判員の参加する刑事裁判に関する法律に規定する裁判員制度による裁判の参加及び各種手続（事実を証明する書類を必要とする）

（オ）その他、学部長がやむを得ない理由があると認めたとき

(2) 追試験の申請手続

追試験を申請する場合は、当該定期試験期間終了日の翌日 17 時までに、所属学部の学務担当係まで「追

試験申請書」と併せて必要書類を提出してください（Eメール申請可、代理人申請可）。

（3）追試験の実施方法

追試験は、当該定期試験期間終了後、速やかに実施します。

なお、追試験の実施方法は、科目担当教員が指定する方法とします。

Q：大学のレポートはどうやって書けばいいのですか？

A：大学の授業では、レポートが課されることがしばしばあり、それが成績評価の対象になります。レポートは、高校までに書いてきた作文や小論文とは異なりますので、書き方の一定のルールを知り、それに従って書くことが必要です。また、テーマに関係のある文献や資料を十分な時間をかけて情報収集をする必要があり、課題がでたら早めに取り組むようにしましょう。

レポート作成において、他人のアイデア（着想）や意見、見解等をまるで自分が独自に考えたことのように、出版物やインターネット上の情報（生成 AI の出力情報を含む）をそのままコピー＆ペースト（コピペ）することは剽窃行為であり、不正行為となります。

文献（図書、論文、雑誌、新聞、信用のあるインターネットサイト情報等）から、他人の意見や見解等を正しく引用するルールを身に付けることが重要となります。一般的なレポートの書き方は、YNU リテラシーで学びます。

また、レポート作成だけでなく、定期試験において決してカンニング（不正行為）を行わないでください。

4. 授業科目の成績評価について

（1）成績評価の基準と方法

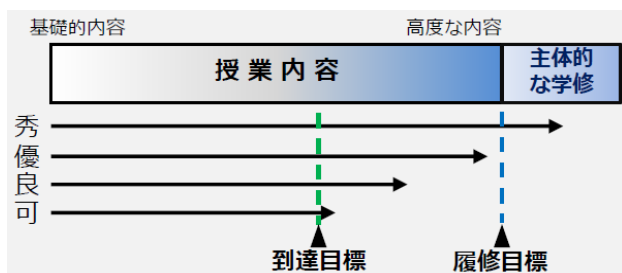
授業科目の成績は、全学統一の成績評価の基準に基づき、WEB シラバスに記載された成績評価の方法によって総合判定し、成績評語（グレード）を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表すとともに、それぞれの授業科目の評語に対して GP（Grade Point）を与えます。ただし、5段階の成績評価が難しい授業科目は「合格・不合格」で表すとともに、GP（Grade Point）を与えません。

授業科目の単位は、「秀・優・良・可・合格」を修得した学生に対して授与されます。

成績評価の基準

評語	成績評価の基準	GP	評価点
秀	履修目標を越えて主体的に学修したと認められるレベルを達成している	4.5	100－90点
優	履修目標を達成している	4	89－80点
良	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	3	79－70点
可	到達目標を達成している	2	69－60点
不可	到達目標を達成していない	0	59－0点

※評価点はシラバスに記載する「成績評価の基準」によって科目担当教員が算出している点数であり、必ずしも定期試験等の点数と同じではありません。



(2) GPA 制度と卒業要件

本学は GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。

GPA とは、学生が履修した授業科目の成績評価に対する GP (Grade Point) に当該科目の単位数を掛け、その総和を履修登録科目の総単位数で除して算出されます。

GPA 計算式

$$\text{GPA} = (\text{GP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / \text{履修登録単位数の総和}$$

本学の卒業要件は、学生の所属学部の学科等 (学士プログラム) が定める卒業に必要な修得すべき単位数以上の修得要件等に加え、GPA2.0 以上を満たす必要があります。例えば、必要以上に授業科目を履修し、単位を修得できない場合は、GPA が下がることとなりますので、無理がなく十分な学修時間が確保できるよう履修計画をたてる必要があります。

なお、学士プログラムによっては、GPA に算定されない授業科目があります。詳細は所属学部の履修案内 (履修手引) を必ず確認してください。

(3) 再履修制度

単位修得した授業科目の再履修は認めていませんが、履修の結果「不可」「不合格」の成績である場合には再履修が認められます。履修登録の際に「再履修申請」を行うことで、GPA の分母である「総履修登録単位数」が増えることにはならず、再履修した場合の成績が、再履修後の成績に置き換えられます。

再履修は同じ科目でなくとも同一科目区分 (「生命・自然」、「こと・もの」、「かかわり」) の未履修科目の中から自由に選択できますが、以下の各科目及び各学部等が指定する必修科目は同一名称の科目の再履修が必要です。

科目区分	再履修科目
外国語科目 (英語・初修外国語)	<p>《共通事項》再履修時は、不可だった際と異なる担当教員のクラスを履修しても差し支えない。</p> <p>【実践英語科目】【初修外国語科目】 同一名称の科目を履修すること。</p> <p>【応用英語 1】 不可だった際と異なるフォーカスを選択しても差し支えない。</p> <p>【応用英語 2】 取得している TOEFL スコアが履修条件を満たし</p>

	ていれば、再履修は 2a,2b どちらでも可
外国語科目（日本語）	同一名称の科目を履修すること。 ただし、同一名称の科目が開講されていない場合、同一科目区分（日本語科目）の未修得科目の中から自由を選択。 入学時に日本語中級者と判定された者が1年次春学期に「日本語中級」の科目が不合格となった場合には、代わりに「日本語上級」から1科目を履修する。
健康スポーツ科目	同一名称の科目を履修すること。ただし、健康スポーツ演習 B においては、種目は問いません。

（4）成績の自己管理

卒業するまでの学業成績、修得単位数と GPA は、学務情報システム及び YNU 学生ポートフォリオにより、成績を正確に把握してください。

成績の自己管理を怠っていると、卒業に必要な修得すべき単位数や GPA の修得状況の勘違い等により、卒業できない事態を招きかねませんので十分に確認してください。

（5）成績に関する問い合わせ

全学教育科目の成績に関する問い合わせは、それぞれの責任開講部局ごとに成績確認期間が設けられます。詳細は各学部・教育企画課全学教育係の授業支援システム等を確認してください。なお、成績に関する問い合わせをする際は、個別成績表を必ず持参してください。

（注）第3ターム（夏季休業期間）、第6ターム（春季休業期間）、集中、不定期等が開講される科目は成績の確定が成績確認期間以降となる場合があります（未確定の科目は確定まで評価欄が空白となります）。また、学期末の卒業・進級判定等の際に考慮されない場合もあることを了承のうえ履修してください（卒業・進級判定等の詳細は所属学部を確認すること）。

Q：GPAは何を目的に導入しているのですか？

A：本学は2003年度入学生から GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPA は、欧米の大学で用いられ始め、今日では発展途上国を含め世界各国に広がっている国際的な成績評価システムです。日本では9割を超える大学で導入されています。学生のみなさんにとっての利点は、「YNU 学生ポートフォリオ」とあわせて利用することにより、自分自身で学修成果を把握することが容易になることです。所属学部生の GPA 成績分布図をみることができますので、あなた自身の位置を確認して、「学修意欲の向上」に是非役立ててください。またほとんどの海外の大学において、GPA は留学生を受け入れる際に必要な情報となっており、みなさんの海外留学の促進にも、役立っています。

所属学部の教員やスタッフも、みなさんの学修状況を数値的に把握することで、教育指導の向上を図っています。たとえば学年毎の成績最優秀者の選考では GPA を重視していますので、この点でも勉学・研究の励みの1つとして活用してください。

Q：成績の自己管理はどうやればいいのですか？

A：修得した成績と単位は、学生自身で正確に管理しなければなりません。

例えば、4年次に、所属学部の学務担当係から「あなたは全学教育科目が2単位足りないから、今年修得しないと卒業できません」などと個別に連絡することはありません。

学業成績、修得単位数とGPAは、「YNU学生ポートフォリオ」により常に正確に把握し、次のセメスター（ターム）に履修する授業科目を学生自身が決定しなければなりません。もし、単位修得の状況について、少しでも不安があるときは、分からない事柄をよく整理して、所属学部の学務担当係に遠慮なく相談してください。

VI. 学外や海外における授業科目の履修等

1. 修得単位の認定について

(1) 修得単位の認定とは

他大学や大学以外の教育機関等から修得した単位は、所属学部で認定することで、本学における修得単位として認定する制度です。

本制度を利用することにより、関連する専攻分野を深める、あるいは本学にない専攻分野を学ぶなど、学生の幅広い関心と興味に応じた履修の機会が広がります。

(2) 修得単位の認定単位について

修得単位の認定科目は、成績評語は「認定」で表し、GP (Grade Point) は与えません。

2. 横浜市内大学間単位互換制度の履修について

横浜市内大学間単位互換制度とは、横浜市内にある 12 の国公立大学が単位互換協定を結び、各大学が提供する授業科目を相互に無料で履修できる制度です。所属学部での承認に基づき、本学における修得単位として認定されます。

本学が他大学履修できる大学は、神奈川大学、関東学院大学、國學院大学、鶴見大学、桐蔭横浜大学、東京都市大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、明治学院大学、横浜商科大学、横浜市立大学の 11 大学です。

横浜市内大学間単位互換制度で履修できる授業科目、修得できる単位数は所属学部により異なります。事前に所属学部の学務担当係または学生センター（学務・国際戦略部教育企画課全学教育係）に問い合わせてください。

3. 放送大学単位互換制度（特別聴講学生）について

本学では、放送大学との単位互換協定に基づき、本学の学生が指定された単位互換科目を放送大学の「特別聴講学生」として履修した場合に、本学で修得したとみなし、認定する制度です。

履修の手続などは、P.41 を参照してください。

4. 派遣留学先の授業科目の認定について

本学は、外国の大学等教育機関と学術交流協定を締結し、学生交流を推進しています。本学の派遣留学生となり、交流協定大学での授業履修により単位を修得した場合は、所属学部の承認に基づき、本学における修得単位として認定されます。

派遣留学により履修できる授業科目、修得できる単位数は所属学部により異なります。事前に所属学部の学務担当係に問い合わせてください。

VII. YNU 学生ポートフォリオについて

学務情報システムには、皆さんが自分の学修成果を可視化するツールとして「YNU 学生ポートフォリオ」があります。YNU 学生ポートフォリオは、成績や学修成果（講義からの学び、日々の気づきの記録）などを入れておくことができるWEB 上の自分専用ファイルで、学業の改善や就職活動に活用できます。詳細は冊子「YNUリテラシー：アカデミック・リテラシー編」、または学務情報システムのトップページにある説明(PDF版)を参照してください。

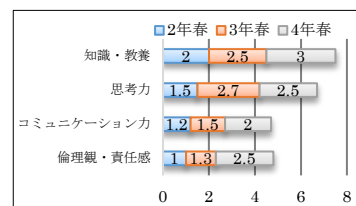
(1) 履修登録前に学生プロフィールを入力する

毎学期、学期が始まったら、第1週目に学務情報システムから履修登録画面にアクセスし、学生プロフィールの入力を済ませてください。履修登録画面にアクセスすると、自動的にYNU 学生ポートフォリオの「学生プロフィール」画面が開きます。入力が完了しないと、履修登録画面に進みません。学生プロフィールの入力には1時間前後必要ですので、履修する科目を決める前に、あらかじめ学生プロフィールの入力を完了しておき、履修科目が決まったら、後日改めて履修登録画面にアクセスし履修登録するようにしてください。

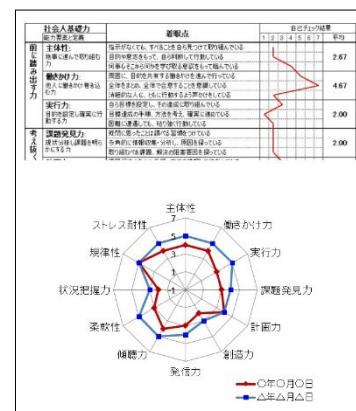
新入生の春学期に入力する項目は、緊急連絡先、高校時代の学修・生活行動（チェックシート）、入学時に考えたこと（振り返りシート）の3つです。これらの入力内容はYNU 学生ポートフォリオに蓄積されますので、上級生になってから振り返って読み直し、あなたの成長の軌跡や立ち位置を確認するのに役立ちます。

(2) 学生ポートフォリオの主要機能

学務情報システム>ポートフォリオ>学士力チェック：2年次以降、春学期の学生プロフィールには学士力の自己チェックがあります。本学のディプロマ・ポリシーにある「学修成果の目標」の《4つの実践的「知」》に基づき、成長度合いの自己チェック結果が表示されます。履修や学修計画の見直しに活用できます。



学務情報システム>ポートフォリオ>就業力チェック：1年次の秋学期以降、秋学期の学生プロフィールには就業力自己チェックがあります。論理的思考力、課題解決力、交渉力、協調性など、どんな職業に就いても共通に必要なとされる基礎的・汎用的スキルの自己チェック結果が表示されます。強みを伸ばし、弱みを改善して、自己の成長の指標として活用してください。

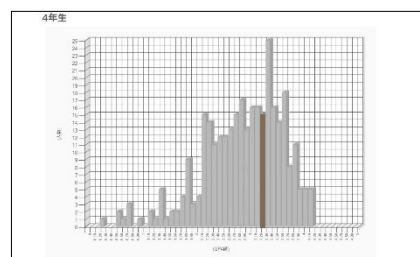


学務情報システム>ポートフォリオ>振り返りシート：学業や学生生活からの学びを記録し、あなた自身で学業や学生生活、将来を構想するためのページです。学士力や就業力の自己チェック結果のグラフや、次項にある過去の履修科目や成績などを参照しながら記入してください。これらの記録は、就職活動の際にはエントリーシート作成等にも活用できます。

(3) 学生ポートフォリオに関連する機能

学務情報システム>履修・成績情報>成績統計：自分のGPAと共に学部全体のGPA分布図を確認できます。

学務情報システム>履修・成績情報>各種語学試験結果：学内で行われるTOEFL-ITPテストの結果を確認できます。



Ⅷ. 2026 年度開講全学教育科目一覧 ※開講科目は年度によって異なります。

開講科目に関する詳細情報は別途掲示される時間割を参照してください。変更点に関しても、授業支援システム (LMS) 等に掲示されますので、必ず確認してください。開講部局・対象学部 of 略称名、については、P.20 の開講部局コードと P.54 の凡例にて参照してください。備考については P.60 の表を参照してください。

※YNU リテラシー科目及び各科目区分で未掲載の科目は時間割を参照してください

(1) 生命・自然 (健康スポーツ科目群については時間割を参照すること)

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9111109	教育	GS.1121	美術の見かた	2	【共通】	1~4	
9111176	教育	GS.1121	立体表現基礎	2	【共通】	1~4	
9111181	教育	GS.1121	絵画基礎—ドローイング—	2	【共通】	1~4	注1
9111309	経営	GB.1121	美術と社会	2	【共通】	1~4	注1
9111603	都市	GU.1161	社会分析のための統計基礎	2	【共通】	1~4	
9111604	都市	GU.1111	論理の哲学	2	【共通】	1~4	注1
9111609	都市	GU.1121	超域思想論	2	【共通】	1~4	注1
9111821	教育推進(LLS)	GX.1181	ウマなび—馬を通して自己と社会を考える—	2	【共通】	1~4	
9112123	教育	GS.1271	気象学入門	2	【共通】	1~4	
9112124	教育	GS.1211	文系のための数学入門	2	教・済・営	1~4	
9112125	教育	GS.1271	海洋地質学入門	2	【共通】	1~4	
9112126	教育	GS.1211	JASPIによるデータ分析	2	【共通】	1~4	地域
9112130	教育	GS.1241	野外自然観察の技法—植物、虫、鳥、獣の観察	2	【共通】	1~4	
9112182	教育	GS.1241	生物季節学I	2	【共通】	1~4	
9112183	教育	GS.1241	生物季節学II	2	【共通】	1~4	
9112184	教育	GS.1281	木育教材の開発と実践	2	【共通】	1~4	
9112189	教育	GS.1221	日常の中の物理	2	教・済・営	1~4	
9112311	経営	GB.1211	数学 I	2	済・営	1~4	注2-2
9112312	経営	GB.1211	数学 II	2	済・営	1~4	注2-2
9112313	経営	GB.1231	化学	2	教・済・営・社	1~4	注1
9112314	経営	GB.1211	統計学のための基礎数学	2	教・済・営・社	1~4	注1
9112315	経営	GB.1211	統計学基礎	2	教・済・営・社	1~4	必1-1・注1
9112316	経営	GB.1211	統計データ分析	2	教・済・営・社	1~4	必1-2・注1
9112317	経営	GB.2211	理工学のための統計学 I	2	理・都	2~4	必2-1・注1・他1
9112318	経営	GB.2211	理工学のための統計学 II	2	理・都	2~4	必2-1・注1・他1
9112504	理工	GR.1271	応用気象学	2	【共通】	1~4	
9112511	理工	GR.1211	数理科学 I	2	教・済・営・社	1~4	
9112512	理工	GR.1211	数理科学 I	2	教・済・営・社	1~4	
9112513	理工	GR.1211	数理科学 II	2	教・済・営・社	1~4	
9112514	理工	GR.1211	数理科学 II	2	教・済・営・社	1~4	
9112516	理工	GR.1211	線形代数 I	2	教・済・営・社	1~4	注2-2
9112517	理工	GR.1211	線形代数 I	2	済・営	1~4	注2-2
9112518	理工	GR.1211	線形代数 I	2	経営	1~4	注2-2
9112519	理工	GR.1211	線形代数 II	2	教・済・営・社	1~4	注2-2
9112520	理工	GR.1211	線形代数 II	2	済・営	1~4	注2-2
9112521	理工	GR.1211	線形代数 II	2	経営	1~4	注2-2
9112522	理工	GR.1211	微分積分 I	2	経済	1~4	
9112523	理工	GR.1211	微分積分 I	2	経済	1~4	
9112524	理工	GR.1211	微分積分 I	2	経営	1~4	
9112525	理工	GR.1211	微分積分 I	2	経営	1~4	
9112526	理工	GR.1211	微分積分 II	2	経済	1~4	
9112527	理工	GR.1211	微分積分 II	2	経済	1~4	
9112528	理工	GR.1211	微分積分 II	2	経営	1~4	
9112529	理工	GR.1211	微分積分 II	2	経営	1~4	
9112540	理工	GR.1231	基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1~4	
9112541	理工	GR.1231	基礎から学ぶ化学	2	教・済・営・社	1~4	
9112544	理工	GR.1251	材料学入門	2	【共通】	1~4	必3・他2
9112545	理工	GR.1251	材料学入門	2	【共通】	1~4	必3
9112546	理工	GR.1211	数理科学概論	2	【共通】	1~4	必4
9112547	理工	GR.1221	物理工学概論	2	【共通】	1~4	必5
9112548	理工	GR.1261	電子情報システム概論	2	【共通】	1~4	必6
9112549	理工	GR.1261	情報工学概論	2	教・済・営・都	1~4	
9112550	理工	GR.1261	情報工学概論	2	理工	1~4	必7・注1
9112551	理工	GR.1241	生命科学	2	【共通】	1~4	注2-2
9112552	理工	GR.1271	環境リスクとつきあうII	1	【共通】	1~4	

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9112573	理工	GR.1211	現代の数理科学C	2	【共通】	1～4	
9112614	都市	GU.1221	地球と惑星の科学 I	1	【共通】	1～4	
9112615	都市	GU.1221	地球と惑星の科学 II	1	【共通】	1～4	
9112616	都市	GU.1241	生物の世界 I	1	【共通】	1～4	必2-2
9112617	都市	GU.1241	生物の世界 II	1	【共通】	1～4	必2-2
9112622	都市	GU.1271	環境リスクとつきあう I	1	【共通】	1～4	
9112625	都市	GU.1271	地球誕生のしくみ	1	教・済・営	1～4	注1・注3
9112818	保健管理セ	GH.1281	健康の科学	2	【共通】	1～4	
9112822	教育推進(LLS)	GX.1291	科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	1	【共通】	1～4	
9112823	教育推進(LLS)	GX.1291	科学文章の書き方－悪文から学ぶ－	1	【共通】	1～4	
9131131	教育	GS.2721	Sports Psychology	2	【共通】	2～4	
9131132	教育	GS.1722	Badminton: Beginning	2	【共通】	1～4	
9131133	教育	GS.1722	Ski: Beginning	2	【共通】	1～4	
9131134	教育	GS.1721	Tennis: Beginning	2	【共通】	1～4	
9131554	理工	GR.2722	Prospects of Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1～4	
9131555	理工	GR.2722	Prospects of Maths, Phys, Elec, Eng & Comp Sci	2	【共通】	1～4	
9131556	理工	GR.2722	Prospects of Mech Eng, Mater Sci and Ocean Eng	2	【共通】	1～4	注1
9142220	経済	GE.2821	数理統計	2	【共通】	2～4	注2-1
9144807	教育推進	GX.1841	Wake up! プロジェクト	2	【共通】	1	
9144808	教育推進	GX.1841	キャリアデザイン	2	【共通】	1～4	
9144830	教育推進(LLS)	GX.2841	「科学的思考」を武器にする	2	【共通】	1～4	

◇開講部局・対象学部

開講部局	対象学部	名称
教育	教	教育学部
経済	済	経済学部
経営	営	経営学部
国社		国際社会科学府
理工	理	理工学部
都市	都	都市科学部
	社	都市科学部 都市社会共生学科
	建	都市科学部 建築学科
	基	都市科学部 都市基盤学科
	環	都市科学部 環境リスク共生学科
国際		国際戦略推進機構
教育推進		教育推進機構
情報基盤セ		情報基盤センター
機器セ		機器分析センター
ダイバーシティ		ダイバーシティ戦略推進本部
リスクセ		リスク共生社会創造センター
地域セ		地域実践教育センター
成長セ		成長戦略研究センター
保健管理セ		保健管理センター
教育推進 (LLS)		YNUリーディングレクチャーシリーズ

(2) こと・もの

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9211103	教育	GS.1131	中国の古典文学	2	【共通】	1~4	
9211106	教育	GS.1161	日本国憲法	2	教・理・都	1~4	必2-3
9211108	教育	GS.1141	ヨーロッパ近現代史	2	【共通】	1~4	
9211122	教育	GS.1111	哲学と宗教	2	【共通】	1~4	
9211179	教育	GS.1131	日本の近代文学	2	【共通】	1~4	
9211201	経済	GE.1171	現代の経済A	2	教・営・理・都	1~4	
9211202	経済	GE.1171	現代の経済A	2	教・営・理・都	1~4	
9211203	経済	GE.1171	現代の経済B	2	教・営・理・都	1~4	
9211204	経済	GE.1171	現代の経済B	2	教・営・理・都	1~4	
9211205	経済	GE.1161	現代政治(国際)	2	【共通】	1~4	
9211206	経済	GE.1161	現代政治(日本)	2	【共通】	1~4	
9211207	経済	GE.1171	社会科学の方法	2	【共通】	1~4	
9211208	経済	GE.1171	社会科学の歴史	2	【共通】	1~4	
9211212	経済	GE.1171	生命保険と社会保障	2	【共通】	1~4	
9211213	経済	GE.1171	データによる社会経済の可視化入門	2	【共通】	1~4	
9211214	経済	GE.1171	データによる社会経済の可視化実践	2	【共通】	1~4	
9211301	経営	GB.1171	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	2	【共通】	1~4	必8・注3
9211302	経営	GB.1171	アントレプレナーシップ論	2	【共通】	1~4	地域・必8・注1・注3
9211303	経営	GB.1131	国語・国文学 I	2	【共通】	1~4	
9211304	経営	GB.1131	国語・国文学 II	2	【共通】	1~4	
9211305	経営	GB.1171	経済 I	2	【共通】	1~4	
9211306	経営	GB.1171	経済 II	2	【共通】	1~4	
9211307	経営	GB.1171	現代の物流経営	2	【共通】	1~4	地域
9211308	経営	GB.1171	現代の社会と会計	2	教・理・都	1~4	注3
9211310	経営	GB.1141	歴史	2	【共通】	1~4	注1
9211311	経営	GE.1171	ジャーナリストが語るデジタル社会	2	【共通】	1~4	注1
9211401	国社	GL.1161	日本国憲法	2	【共通】	1~4	必2-3
9211402	国社	GL.1161	法学概論	2	【共通】	1~4	
9211403	国社	GL.1161	現代社会と法	2	【共通】	1~4	注1
9211404	国社	GL.1161	社会の制度を考える	2	【共通】	1~4	注1
9211405	国社	GL.1161	行政のしくみと法	2	【共通】	1~4	
9211601	都市	GU.1151	文化人類学の考え方	2	【共通】	1~4	
9211602	都市	GU.1122	Cinema	2	教・済・営・理	1~4	注1
9211605	都市	GU.1111	宗教と社会	2	【共通】	1~4	注1
9211606	都市	GU.1111	アジアの社会と思想	2	【共通】	1~4	注1
9211607	都市	GU.1121	近現代芸術論	2	【共通】	1~4	注1
9211608	都市	GU.1121	超域芸術論	2	【共通】	1~4	
9211722	国際	GJ.1141	映画で学ぶ韓国の近現代史A	2	【共通】	1~4	
9211723	国際	GJ.1141	映画で学ぶ韓国の近現代史B	2	【共通】	1~4	
9211758	国際	GF.1131	明日のための東洋思想入門 I	1	【共通】	1~4	
9211759	国際	GF.1131	明日のための東洋思想入門 II	1	【共通】	1~4	
9211791	国際	GF.1141	古代ギリシアの神話と歴史	2	【共通】	1~4	
9211792	国際	GF.1141	古代ローマの伝説と歴史	2	【共通】	1~4	
9211801	教育推進	GX.1141	横浜学--地域の再発見--	2	【共通】	1~4	地域
9211817	成長セ	GG.1161	神奈川のみらい	2	【共通】	1~4	地域
9211819	教育推進(LLS)	GX.1161	安全・リスクと法	1	【共通】	1~4	
9212129	教育	GS.1251	身近な電気と機械	2	【共通】	1~4	地域
9212187	教育	GS.1281	居住環境論	2	【共通】	1~4	
9212188	教育	GS.1281	衣生活の科学	2	【共通】	1~4	
9212501	理工	GR.1271	エネルギーと環境	2	理工	1~4	地域
9212502	理工	GR.1271	エネルギーと環境	2	教・済・営・都	1~4	地域
9212503	理工	GR.1271	安全・環境と社会	2	【共通】	1~4	地域・必9
9212505	理工	GR.1231	化学の世界A(物質観としての化学)	2	教・済・営・社	1~4	
9212506	理工	GR.1231	化学の世界B(生活の化学)	2	教・済・営・社	1~4	
9212507	理工	GR.1231	化学の世界C(環境の化学)	2	教・済・営・社	1~4	
9212508	理工	GR.1231	化学の世界D(生命の化学)	2	教・済・営・社	1~4	注2-2
9212509	理工	GR.1251	科学技術史	2	【共通】	1~4	
9212510	理工	GR.1251	海事技術史	2	【共通】	1~4	地域・必10
9212515	理工	GR.1241	生態工学	2	【共通】	1~4	
9212530	理工	GR.1221	物理の世界A	2	教・済・営・社	1~4	

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9212531	理工	GR.1221	物理の世界B	2	教・済・営・社	1~4	
9212532	理工	GR.1251	海洋工学と社会	2	【共通】	1~4	地域・必10
9212533	理工	GR.1251	海洋工学と社会	2	【共通】	1~4	地域・必10
9212534	理工	GR.1251	機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1~4	必11
9212535	理工	GR.1251	機械工学と社会とのかかわり合い	2	【共通】	1~4	必11
9212536	理工	GR.1251	物質工学と社会	2	【共通】	1~4	地域・必9
9212537	理工	GR.1251	物質工学と社会	2	【共通】	1~4	地域・必9
9212538	理工	GR.1221	体験物理科学A	2	教・済・営・社	1~4	
9212539	理工	GR.1221	体験物理科学B	2	教・済・営・社	1~4	
9212542	理工	GR.1251	エネルギー工学序論	2	【共通】	1~4	必9
9212553	理工	GR.1251	身の回りの科学	2	【共通】	1~4	
9212610	都市	GU.1261	情報と社会	2	【共通】	1~4	
9212611	都市	GU.1271	建築の環境と防災	2	【共通】	1~4	制1・地域
9212612	都市	GU.1271	都市と建築	2	【共通】	1~4	制1
9212618	都市	GU.1251	土木史と文明 I	1	【共通】	1~4	注3
9212619	都市	GU.1251	土木史と文明 II	1	【共通】	1~4	注3
9212620	都市	GU.1251	国土学とグローバル社会 I	1	【共通】	1~4	
9212621	都市	GU.1251	国土学とグローバル社会 II	1	【共通】	1~4	
9212623	都市	GU.1271	環境をめぐる諸問題 I	1	【共通】	1~4	地域
9212624	都市	GU.1271	環境をめぐる諸問題 II	1	【共通】	1~4	地域
9212626	都市	GU.1272	MAB/SDGsグローバル化演習 I	2	【共通】	1~4	注3
9212627	都市	GU.1272	MAB/SDGsグローバル化演習 II	2	【共通】	1~4	注3
9212629	都市	GU.1271	地質リスクマネジメント I	1	【共通】	1~4	
9212630	都市	GU.1271	地質リスクマネジメント II	1	【共通】	1~4	
9212812	情報基盤セ	GI.1261	情報セキュリティの基礎	2	【共通】	1~4	注1
9212813	情報基盤セ	GI.1261	情報ネットワークシステムの基礎	2	【共通】	1~4	注1
9212814	情報基盤セ	GI.1261	Python プログラミング	2	【共通】	1~4	
9212815	機器セ	GK.1251	物質と量子の相互作用 ~日常の中の量子現象	2	【共通】	1~4	注1
9231215	経済	GE.2722	International Economics	2	教・理・都	2~4	注3
9231216	経済	GE.3722	中級国際経済学	2	教・理・都	3~4	注3
9231217	経済	GE.2722	比較経済学	2	教・理・都	2~4	注3
9231218	経済	GE.3722	Statistical Theory and Applications	2	教・理・都	3~4	注3
9241225	経済	GE.1831	Visiting Scholar Guest Lecture 1	2	教・理・都	1~4	注3
9241226	経済	GE.1831	Visiting Scholar Guest Lecture 2	2	教・理・都	1~4	注3
9231320	経営	GB.2722	Basics of Business Accounting	2	教・理・都	1~4	留学・注3
9231557	理工	GR.2722	Practice in Chemistry, Chemical Eng & Life Sci	2	【共通】	1~4	
9231558	理工	GR.2722	Practice in Maths, Phys, Elec Eng & Comp Sci	2	【共通】	1~4	
9231559	理工	GR.2722	Practice in Mech Eng, Mater Sci and Ocean Eng	2	【共通】	1~4	
9231631	都市	GU.2722	Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	2	【共通】	1~4	注1
9231632	都市	GU.2721	都市科学A(グローバル・ローカル)	1	教・済・営・理	1~4	注3
9231633	都市	GU.2721	都市科学B(リスク共生)	1	教・済・営・理	1~4	注3
9231634	都市	GU.2721	都市科学C(イノベーション)	1	教・済・営・理	1~4	注3
9231635	都市	GU.2721	都市科学S(ソーシャルプラクティス)	1	【共通】	1~4	注3
9231736	国際	GT.2722	Yokohama Studies	2	【共通】	1~4	注1
9231737	国際	GT.2722	Economic Development	2	【共通】	1~4	他4
9231738	国際	GT.2722	Globalization and Regional Economic Integration	2	【共通】	2~4	他4
9241219	経済	GE.2812	Global Economy	2	【共通】	2~4	注2-1
9241222	経済	GE.1171	資本市場の役割と証券投資	2	教・理・都	2~4	注3
9241223	経済	GE.1171	関税政策と税関行政	2	教・理・都	1~4	注3
9241224	経済	GE.1171	Principles of Economics	2	教・理・都	1~4	
9241322	経営	GB.1811	デモクラシー概論	2	【共通】	1~4	注1
9241560	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241561	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241562	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241563	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241564	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241565	理工	GR.1812	Introduction to Mathematics, Data science and AI	2	【共通】	1~4	注2-2
9241571	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241572	理工	GR.1811	数理・データサイエンス・AI入門	2	【共通】	1~4	必2-4・注2-2
9241636	都市	GU.2811	都市環境リスク共生論A	1	教・済・営・理	2~4	注3

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9241826	教育推進(LLS)	GX.2811	理系学生のための企業法務入門1	1	【共通】	1~4	注1
9241827	教育推進(LLS)	GX.2811	理系学生のための企業法務入門2	1	【共通】	1~4	
9242566	理工	GR.2821	イノベーションと社会	2	【共通】	1~4	
9242567	理工	GR.2821	データサイエンス実践基礎	2	教・済・営・都	2~4	注3
9242568	理工	GR.2821	AI実践基礎	2	教・済・営・都	2~4	注3
9242569	理工	GR.2821	ITシステム開発プロセス	2	【共通】	2~4	地域・注1・他3
9243221	経済	GE.3831	知的財産法	2	【共通】	3~4	注2-1
9243323	経営	GB.3831	国際イノベーションマネジメント論	2	教・理・都	3~4	注3
9243326	経営	GE.2831	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	2	教・理・都	2~4	注1・注3
9243570	理工	GR.2831	工業経営	2	【共通】	1~4	注1
9243637	都市	GU.2831	地域・都市計画	1	【共通】	2~4	注1・注3
9243828	教育推進(LLS)	GX.2831	横浜市における地球温暖化対策ワークショップ	2	【共通】	1~4	注1

(3) かかわり (外国語科目 (日本語を含む)、TIPs は時間割表を参照すること)

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9311101	教育	GS.1181	教育学(教育と人間)	2	【共通】	1~4	
9311102	教育	GS.1181	心理学B	2	【共通】	1~4	注1
9311105	教育	GS.1131	日本の言語	2	【共通】	1~4	地域
9311107	教育	GS.1121	音楽と自然	2	【共通】	1~4	
9311110	教育	GS.1181	心理学史	2	【共通】	1~4	地域
9311111	教育	GS.1181	学校教育最前線	2	【共通】	1~4	
9311112	教育	GS.1181	学外活動(教育ボランティア)	2	教・理・都	1~4	制2、注2-1、地域
9311113	教育	GS.1181	学外活動(教育ボランティア)	2	教・理・都	1~4	制2、注2-1、地域
9311114	教育	GS.1181	特別支援教育入門	2	済・営・理・都	1~4	地域・注3
9311115	教育	GS.1181	特別支援教育入門	2	済・営・理・都	1~4	地域・注3
9311116	教育	GS.1181	学校教育と子どもの発達・教師の成長	2	【共通】	1~4	
9311117	教育	GS.1181	ジェンダーと教育	2	【共通】	1~4	
9311118	教育	GS.1181	教育から見たSDGsと共生社会	2	【共通】	1~4	注1
9311120	教育	GS.1181	発達心理学	2	【共通】	1~4	
9311121	教育	GS.1181	健康心理学	2	【共通】	1~4	
9311178	教育	GS.1181	アメリカの市民生活を教育史から読み解く	2	【共通】	1~4	
9311180	教育	GS.1121	音楽と社会包摂—誰もが参加できる音楽の場づくり	2	【共通】	1~4	
9311190	教育	GS.1181	現代社会論	2	【共通】	1~4	
9311191	教育	GS.1121	江戸期の人々と遊び—文化を生む原動力とは—	2	【共通】	1~4	
9311192	教育	GS.1181	広くて深いカリキュラム(教育課程)論	2	済・営・理・都	1~4	
9311209	経済	GE.1171	社会科学概論A	2	【共通】	1~4	
9311210	経済	GE.1171	社会科学概論B	2	【共通】	1~4	
9311211	経済	GE.1141	地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	2	教・済・営・理	1~4	地域・注3
9311638	都市	GU.1181	社会学	2	【共通】	1~4	
9311721	国際	GJ.1131	国際理解 国際交流における日本語の役割	2	【共通】	1~4	
9311802	教育推進	GX.1181	人と動物の幸せな共生を考える	2	【共通】	1~4	
9311803	教育推進	GX.1181	YNUキャリア&アントレプレナーシップ:CoIN連携講座	2	【共通】	1~4	
9311804	教育推進	GX.1181	人と動物の共生論	2	【共通】	1~4	
9311810	教育推進	GX.1181	ウマなび II—馬を通して自己と社会を考える—	2	【共通】	1~4	
9311811	教育推進	GX.1181	インクルーシブ社会のデザイン—人と犬が支え合うカタチ	2	【共通】	1~4	
9311820	教育推進(LLS)	GX.1171	デジタル商品企画実習	2	【共通】	1~4	注1
9311831	教育推進	GX.1181	ウェルビーイング&リーダーシップ—馬から学ぶ自己と社会—	2	【共通】	1~4	
9312127	教育	GS.1211	小学校プログラミング教育	2	【共通】	1~4	
9312128	教育	GS.1291	オリンピック・パラリンピックから考えるダイバーシティ	2	【共通】	1~4	
9312543	理工	GR.1261	コンピュータシステムとコミュニケーション	2	【共通】	1~4	
9312613	都市	GU.1271	地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	2	教・済・営・理	1~4	地域・注1・注3
9312628	都市	GU.2272	MAB計画とSDGs	2	教・済・営・理	1~4	注3
9331319	経営	GB.2722	Global Management in Asia	2	教・理・都	2~4	留学・注3
9331321	経営	GB.2722	Production and Operations Management	2	教・理・都	1~4	留学・注3
9331322	経営	GB.2722	グローバルキャリアデザイン	2	数・理・都	1~4	注3
9331735	国際	GT.2722	Academic Presentation Skills	2	【共通】	1~4	
9331757	国際	GT.2722	Business Presentation Skills	2	【共通】	1~4	
9331739	国際	GT.2722	Culture and Identity in Contemporary Japan	2	【共通】	2~4	
9331740	国際	GT.2722	Muslim-Minority Communities in a Global Context	2	【共通】	2~4	
9331760	国際	GJ.2721	ストーリーを通じて地域とつながる実践	2	【共通】	1~4	
9332724	国際	GQ.2711	パラグアイ事情	2	【共通】	1~4	
9332725	国際	GJ.2711	韓国事情	2	【共通】	1~4	
9332726	国際	GQ.2711	グローバル人材と持続的開発:JICE連携講座	2	【共通】	1~4	
9332728	国際	GQ.2711	インドネシア事情	2	【共通】	1~4	
9332729	国際	GQ.2711	チャイニーズ・スピーキングリージョンズ	2	【共通】	1~4	
9332730	国際	GQ.2711	インド事情	1	【共通】	1~4	
9332731	国際	GQ.2712	オーストラリア事情	1	【共通】	1~4	
9332732	国際	GQ.2711	中国事情 I	1	【共通】	1~4	
9332733	国際	GQ.2711	中国事情 II	1	【共通】	1~4	
9332734	国際	GJ.1711	日本事情 日本の就職事情	2	【共通】	1~4	留学・注1
9332757	国際	GQ.2711	ベトナム事情	2	【共通】	1~4	
9037101	国際	GF.2471	ギリシア語実習	1	【共通】	1~4	
9037151	国際	GF.2481	ラテン語実習	1	【共通】	1~4	
9332824	教育推進(LLS)	GX.2711	グローバル・シティズンシップ	2	【共通】	1~4	
9332825	教育推進(LLS)	GX.2711	現場から考える国際開発協力:JICA連携講座	2	【共通】	1~4	

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9343829	教育推進(LLS)	GX.2831	多様性を尊重する成熟社会とその基盤	1	【共通】	1～4	
9343831	地域セ	GC.1831	地域課題実習Ⅰ	1	【共通】	1～4	地域・他5
9343832	地域セ	GC.1831	地域課題実習Ⅱ	1	【共通】	1～4	地域・他5
9343833	地域セ	GC.2831	地域課題実習Ⅲ	1	【共通】	2～4	地域
9343834	地域セ	GC.2831	地域課題実習Ⅳ	1	【共通】	2～4	地域
9343835	地域セ	GC.3831	地域課題実習Ⅴ	1	【共通】	3～4	地域
9343836	地域セ	GC.3831	地域課題実習Ⅵ	1	【共通】	3～4	地域
9344805	教育推進	GX.2841	ビジネス・コミュニケーション	2	【共通】	2～4	
9344809	教育推進	GX.2841	グローバル化と日本人	2	【共通】	1～4	地域
9344816	ダイバーシティ	GD.2841	ダイバーシティ&インクルージョン入門	2	【共通】	1～4	注1

★YNU リーディング・レクチャ・シリーズ (YNU Leading Lecture Series) (再掲)

時間割コード	開講部局	ナンバリング	授業科目名	単位	対象学部	対象学年	備考
9111821	教育推進(LLS)	GX.1181	ウマなび—馬を通して自己と社会を考える—	2	【共通】	1～4	
9112822	教育推進(LLS)	GX.1291	科学文章の書き方—悪文から学ぶ—	1	【共通】	1～4	
9112823	教育推進(LLS)	GX.1291	科学文章の書き方—悪文から学ぶ—	1	【共通】	1～4	
9144830	教育推進(LLS)	GX.2841	「科学的思考」を武器にする	2	【共通】	1～4	
9211819	教育推進(LLS)	GX.1161	安全・リスクと法	1	【共通】	1～4	
9241826	教育推進(LLS)	GX.2811	理系学生のための企業法務入門1	1	【共通】	1～4	注1
9241827	教育推進(LLS)	GX.2811	理系学生のための企業法務入門2	1	【共通】	1～4	
9243828	教育推進(LLS)	GX.2831	横浜市における地球温暖化対策ワークショップ	2	【共通】	1～4	注1
9311820	教育推進(LLS)	GX.1171	デジタル商品企画実習	2	【共通】	1～4	注1
9332824	教育推進(LLS)	GX.2711	グローバル・シティズンシップ	2	【共通】	1～4	
9332825	教育推進(LLS)	GX.2711	現場から考える国際開発協力・JICA連携講座	2	【共通】	1～4	
9343829	教育推進(LLS)	GX.2831	多様性を尊重する成熟社会とその基盤	1	【共通】	1～4	

注釈

◆備考：必 → 必修・選択必修 関係 (P.16 参照)

注 → 重複履修・学部教育科目対応 関係 (P.61～P.64 参照)

必1-1	経営学部「経営学科」の必修科目（社会人教育プログラムを除く）。
必1-2	経営学部 2024年度以降入学生：一般プログラム、DSEPの必修科目 経営学部 2023年度以前入学生：DSEPの必修科目（一般プログラムは推奨科目扱い）
必2-1	理工学部「機械・材料・海洋系学科の数学の教育職員免許取得希望者」の選択必修科目
必2-2	理工学部「理科の教育職員免許取得希望者」の選択必修科目
必2-3	教育職員免許状取得希望者は「日本国憲法」2単位を必修とします。
必2-4	全学部生必修科目（2単位）、理工学部「教育職員免許取得希望者」の選択必修科目
必3	理工学部「機械・材料・海洋系学科材料工学EP」の必修科目。
必4	理工学部「数物・電子情報系学科数理科学EP」の必修科目。
必5	理工学部「数物・電子情報系学科物理工学EP」の必修科目。
必6	理工学部「数物・電子情報系学科電子情報システムEP」の必修科目。
必7	理工学部「数物・電子情報系学科情報工学EP」の必修科目。
必8	経営学部「経営学科DSEP」の必修科目。
必9	理工学部「化学・生命系学科」の準必修科目。
必10	理工学部「機械・材料・海洋系学科海洋空間のシステムデザインEP」の必修科目。
必11	理工学部「機械・材料・海洋系学科機械工学EP」の必修科目。
注1	履修にあたって、過去に開講していた科目（科目名は変更しているが、授業内容が同一の科目）を既に履修済みの場合、重複して履修できません。P.61の表「1.過去開講に伴う重複禁止科目」を参照してください。
注2-1	特定の学部の学生にとって、学部教育科目でも同内容の科目が同時に開講されています。 P.62の表「2.学部教育科目/全学教育科目との重複禁止科目（選択）について」を参照してください。 学部教育科目と全学教育科目のうちいずれかの科目しか履修できない（重複して履修できない）ため履修登録の際は注意してください。
注2-2	全学教育科目の他開講科目で内容が類似するため重複して履修できない科目があります。 P.62の表「2.学部教育科目/全学教育科目との重複禁止科目（選択）について」を参照してください。
注3	特定の学部（学科）の学生は学部教育科目として履修する必要があります。 P.63の表「3.学部教育対応科目について」を参照のうえ、全学教育科目の対象学部になっていない学部（学科）の学生は学部教育科目で履修してください。
制1	都市科学部「建築学科」の学生は履修できません。
制2	この科目は教育職員免許状取得を希望しない学生は履修できません。
他1	理工学部「機械・材料・海洋系学科海洋空間のシステムデザインEP」の履修推奨科目。
他2	理工学部「機械・材料・海洋系学科材料工学EP」1年次生対象クラス。
他3	理工学部「数物・電子情報系学科 情報工学EP」の履修推奨科目。
他4	都市科学部 2024年度以降入学生：「全学教育科目」として卒業に必要な単位に算入されます。 都市科学部 2023年度以前入学生：「学部共通科目」として卒業に必要な単位に算入され、「全学教育科目」として卒業に必要な単位には算入されません。
他5	都市科学部 2024年度以降入学生：「学部共通科目」として卒業に必要な単位に算入され、「全学教育科目」として卒業に必要な単位には算入されません。 都市科学部 2023年度以前入学生：「全学教育科目」として卒業に必要な単位に算入されます。
地域	この科目は地域交流科目です。全学教育科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子を確認してください。
留学	この科目は留学生のみが履修可能です。

【1. 過去開講に伴う重複禁止科目】

次の表の「これから履修しようとする授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目を既に履修したものは、既にその科目を履修していることから重複履修できません。

開講部局	時間割コード	これから履修しようとする授業科目	重複できない科目（過去開講科目）
教育	9111181	絵画基礎－ドローイング	絵画基礎表現
経営	9111309	美術と社会	美学及び美術史Ⅰ 美学及び美術史Ⅱ
都市	9111604	論理の哲学	哲学
都市	9111609	超越思想論	表象文化論
経営	9112313	化学	化学Ⅰ 化学Ⅱ
経営	9112314	統計学のための基礎数学	統計学Ⅰ－B 統計学Ⅱ－B
経営	9112315	統計学基礎	統計学Ⅰ－A
経営	9112316	統計データ分析	統計学Ⅱ－A
経営	9112317	理工学のための統計学Ⅰ	統計学Ⅰ－C
経営	9112318	理工学のための統計学Ⅱ	統計学Ⅱ－C
理工	9112550	情報工学概論	電子情報工学と社会情報工学概論
都市	9112625	地球誕生のしくみ	地質学
理工	9131556	Prospects of Mech Eng, Mater Sci and Ocean Eng	Prospects of Mechanical Eng and Materials Sci
経営	9211302	アントレプレナーシップ論	ベンチャーから学ぶマネジメント
経営	9211310	歴史	歴史Ⅰ 歴史Ⅱ
経営	9211311	ジャーナリストが語るデジタル社会	DXと社会
国社	9211403	現代社会と法	現代と法
国社	9211404	社会の制度を考える	法と人間
都市	9211602	Cinema	Cinema and Politics in Japanese Contexts
都市	9211605	宗教と社会	宗教学
都市	9211606	アジアの社会と思想	東洋思想史
都市	9211607	近現代芸術論	現代芸術論
情報基盤セ	9212812	情報セキュリティの基礎	情報セキュリティ入門
情報基盤セ	9212813	情報ネットワークシステムの基礎	情報ネットワークシステム入門
機器セ	9212815	物質と量子の相互作用 ～日常の中の量子現象	物質と量子の相互作用 ～機器分析を始める前に
都市	9231631	Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	Prospects of Arch, Infstr, Ocean Eng & Ecosystem S
国際(国際教育)	9231736	Yokohama Studies	Yokohama Studies (Seminar)
経営	9241322	デモクラシー概論	社会科学概論Ⅰ 社会科学概論Ⅱ
教育推進(LLS)	9241826	理系学生のための企業法務入門1	理系学生のための企業法務入門～はじめて学ぶ法務リテラシー
理工	9242569	ITシステム開発プロセス	システム・エンジニアリング
経営	9243326	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	経営者が語るこれからの企業戦略と若者へのメッセージ 経営者が語るこれからの企業戦略と若者へのメッセージ
理工	9243570	工業経営	工業経営
都市	9243637	地域・都市計画	都市計画と交通
教育推進(LLS)	9243828	横浜市における地球温暖化対策ワークショップ	Zero Carbon Yokohama－文理融合・産官学民で考えるサステナビリティ
教育	9311102	心理学B	現代社会と心理学
教育	9311118	教育から見たSDGsと共生社会	障害者とともに考えるSDGsと共生社会
教育推進(LLS)	9311820	デジタル商品企画実習	みんなで創るデジタル・イノベーション実習
都市	9312613	地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	地域連携と都市再生A
国際(国際教育)	9332734	日本事情 日本の就職事情	日本事情 日本で働く
ダイバーシティ	9344816	ダイバーシティ&インクルージョン入門	ダイバーシティ概論：ライフキャリアの多様性

【2. 学部教育科目/全学教育科目との重複禁止科目（選択）について】

次の表の「2026年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目のとおり、学部教育科目もしくは全学教育科目で同一科目が開講されています。対象の学生は、どちらの科目で履修をするか自身で選択し、片方の科目のみ履修することができます。

時間割コード	2025年度開講授業科目	対象学部	重複できない科目（学部教育科目等）		備考
9311112 9311113	学外活動（教育ボランティア）	教・理・部	教育学部 学部教育科目	学外活動・学外学習Ⅱ	教育学部生 ：全学教育科目or学部教育科目どちらかを選択
9241219	Global Economy	【共通】	経済学部 学部教育科目	世界経済論 Global Economy	経済学部生・経営学部生 ：全学教育科目or学部教育科目どちらかを選択
9142220	数理統計	【共通】	経済学部 学部教育科目	数理統計	経済学部生・経営学部生 ：全学教育科目or学部教育科目どちらかを選択
9243221	知的財産法	【共通】	経済学部 学部教育科目	法学特別講義・知的財産権法概論 知的財産権法概論 知的財産法	経済学部生・経営学部生 ：全学教育科目or学部教育科目どちらかを選択
9112311	数学Ⅰ	済・営	全学教育科目 同時開講	線形代数Ⅰ（対象学部：教・済・営・社）	経済学部生、経営学部生 ：左記、全学教育科目2科目のうちどちらかを選択
9112312	数学Ⅱ	済・営	全学教育科目 同時開講	線形代数Ⅱ（対象学部：教・済・営・社）	経済学部生、経営学部生 ：左記、全学教育科目2科目のうちどちらかを選択
9212508	化学の世界D（生命の化学）	教・済・営・社	全学教育科目 同時開講	生命科学（対象学部：【共通】）	教育、経済、経営学部生と都市科学部都市社会共生学科生 ：左記、全学教育科目2科目のうちどちらかを選択
9241560 9241561 9241562 9241563 9241564 9241571 9241572	数理・データサイエンス・AI入門	【共通】	全学教育科目 同時開講	Introduction to Mathematics, Data science and AI （対象学部：【共通】）	全学部生 ：左記、全学教育科目2科目のうちどちらかを選択

【3. 学部教育対応科目について】

次の表の「2025年度開講授業科目」欄の授業科目に対し、右に掲げる授業科目のとおり、学部教育科目として同一科目が開講されています。全学教育科目の対象学部になっていない学部（学科）の学生は全学教育科目ではなく、学部教育科目で履修してください。学部教育科目の時間割コード等は各学部で配布される時間割を確認してください。

時間割コード	2025年度開講授業科目	対象学部	学部教育科目で履修する科目		備考
9101119 9101120	特別支援教育入門	済・営・理・都	教育学部 学部教育科目	特別支援教育総論	教育学部生：学部教育科目で履修
9311211	地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	地域連携と都市再生B【かながわ地域学】	都市科学部生：学部教育科目で履修
9211301	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	【共通】	経営学部 学部教育科目	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	【全学教育科目対象の学生】 ①入学年度に関わらず、経営学部すべてのDSEP学生（全学年対象） ②2024年度以前に入学した経営学部の学生（全プログラム対象） ③2024年度以前に入学した経済学部の学生（全プログラム対象） ④理工学部・教育学部・都市科学部・その他（大学院生等）の学生 【学部教育科目対象の学生】 ①2025年度以降に入学した経営学部の「一般プログラム学生」・「社会人EP学生」 ②2025年度以降に入学した経済学部の学生（全プログラム対象）
9211302	アントレプレナーシップ論	【共通】	経営学部 学部教育科目	アントレプレナーシップ論	【全学教育科目対象の学生】 ①入学年度に関わらず、経営学部すべてのDSEP学生（全学年対象） ②2024年度以前に入学した経営学部の学生（全プログラム対象） ③2024年度以前に入学した経済学部の学生（全プログラム対象） ④理工学部・教育学部・都市科学部・その他（大学院生等）の学生 【学部教育科目対象の学生】 ①2025年度以降に入学した経営学部の「一般プログラム学生」・「社会人EP学生」 ②2025年度以降に入学した経済学部の学生（全プログラム対象）
9331322	グローバルキャリアデザイン	数・理・都	経済学部・経営学部 学部教育科目	グローバルキャリアデザイン	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9211308	現代の社会と会計	教・理・都	経済学部・経営学部 学部教育科目	財務分析論	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9312613	地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	地域連携と都市再生A【ヨコハマ地域学】	都市科学部生：学部教育科目で履修
9212618	土木史と文明Ⅰ	教・済・営・理・建・環	都市科学部 学部教育科目	土木史と文明Ⅰ	都市社会共生学科、都市基盤学科生 ：学部教育科目で履修
9212619	土木史と文明Ⅱ	教・済・営・理・建・環	都市科学部 学部教育科目	土木史と文明Ⅰ	都市社会共生学科、都市基盤学科生 ：学部教育科目で履修
9112625	地球誕生のしくみ	教・済・営	都市科学部 学部教育科目	地球科学	理工学部生：学部教育科目で履修 都市科学部生：学部教育科目で履修
9212626	MAB/SDGs グローバル化演習Ⅰ	教・済・営・理・社・建・基	都市科学部 学部教育科目	MAB/SDGs グローバル化演習Ⅰ	環境リスク共生学科生 ：学部教育科目で履修
9212627	MAB/SDGs グローバル化演習Ⅱ	教・済・営・理・社・建・基	都市科学部 学部教育科目	MAB/SDGs グローバル化演習Ⅱ	環境リスク共生学科生 ：学部教育科目で履修
9312628	MAB計画とSDGs	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	MAB計画とSDGs	都市科学部生：学部教育科目で履修
9231215	International Economics	教・理・都	経済学部 学部教育科目	International Economics	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9231216	中級国際経済学	教・理・都	経済学部 学部教育科目	中級国際経済学	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9231217	比較経済学	教・理・都	経済学部 学部教育科目	比較経済学	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9231218	Statistical Theory and Applications	教・理・都	経済学部 学部教育科目	Statistical Theory and Applications	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9241225	Visiting Scholar Guest Lecture 1	教・理・都	経済学部 学部教育科目	Visiting Scholar Guest Lecture 1	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9241226	Visiting Scholar Guest Lecture 2	教・理・都	経済学部 学部教育科目	Visiting Scholar Guest Lecture 2	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9241222	資本市場の役割と証券投資	教・理・都	経済学部 学部教育科目	資本市場の役割と証券投資	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9241223	関税政策と税関行政	教・理・都	経済学部 学部教育科目	関税政策と税関行政	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9331319	Global Management in Asia	教・理・都	経営学部 学部教育科目	アジアグローバル経営基礎	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9231320	Basics of Business Accounting	教・理・都	経営学部 学部教育科目	Basics of Business Accounting	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9331321	Production and Operations Management	教・理・都	経営学部 学部教育科目	Production and Operations Management	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修

時間割コード	2025年度開講授業科目	対象学部	学部教育科目で履修する科目		備考
9231632	都市科学A (グローバル・ローカル)	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	都市科学A (グローバル・ローカル)	都市科学部生：学部教育科目で履修
9231633	都市科学B (リスク共生)	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	都市科学B (リスク共生)	都市科学部生：学部教育科目で履修
9231634	都市科学C (イノベーション)	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	都市科学C (イノベーション)	都市科学部生：学部教育科目で履修
9231635	都市科学S (ソーシャルプラクティス)	【共通】	都市科学部 学部教育科目	都市科学S (ソーシャルプラクティス)	2024年度以降入学の都市科学部生：学部教育科目で履修 ※2023年度以前入学の都市科学部生：全学教育科目で履修
9241636	都市環境リスク共生論A	教・済・営・理	都市科学部 学部教育科目	都市環境リスク共生論A	都市科学部生：学部教育科目で履修
9242567	データサイエンス実践基礎	教・済・営・都	理工学部 学部教育科目	データサイエンス実践基礎	理工学部生：学部教育科目で履修
9242568	AI実践基礎	教・済・営・都	理工学部 学部教育科目	AI実践基礎	理工学部生：学部教育科目で履修
9243326	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	教・理・都	経済学部・経営学部 学部教育科目	経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ 経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9243323	国際イノベーションマネジメント論	教・理・都	経営学部 学部教育科目	国際イノベーション・マネジメント論	経済学部生：学部教育科目で履修 経営学部生：学部教育科目で履修
9243637	地域・都市計画	教・済・営・理・社・建	都市科学部 学部教育科目	地域・都市計画	都市基盤学科、環境リスク共生学科生 ：学部教育科目で履修